

「子どもが心配」

チェックシート（岡山版）

[平成22年度改訂]

岡 山 県



目 次

『「子どもが心配」チェックシート（岡山版）』について.....	- 1 -
(1) はじめに	- 1 -
(2) 児童相談に係る基準等作成グループ	- 1 -
(3) 検証から明らかになったもの	- 1 -
(4) ネグレクトへの支援	- 2 -
(5) 平成22年度改訂版作成にあたって	- 2 -
(6) 今後の課題	- 3 -
1.地域での支援の重要性.....	- 4 -
(1) 地域での支援の重要性.....	- 4 -
(2) 市町村の役割	- 4 -
(3) 一貫した支援を行うために	- 4 -
2.子どもの最善の利益	- 5 -
(1) “子どもの最善の利益”とは.....	- 5 -
(2) “子どもの最善の利益”を確保するために.....	- 5 -
(3) “子どもの最善の利益”と児童相談所.....	- 6 -
3.子どもと親.....	- 7 -
(1) 子ども.....	- 7 -
(2) 親.....	- 8 -
4.支援を一緒に創る	- 9 -
(1) 「アセスメント」とは	- 9 -
(2) 「強さ」と「困難」	- 10 -
(3) ペースの確認	- 10 -
(4) 目的を明確にする	- 10 -
(5) 情報の収集	- 11 -
(6) 子どもと親の参加.....	- 12 -
(7) 支援機関の協働	- 12 -
5.『「子どもが心配」チェックシート（岡山版）』	- 13 -
(1) 『「子どもが心配」チェックシート（岡山版）』とは.....	- 13 -
(2) 『「子どもが心配」チェックシート（岡山版）』の目的	- 14 -
(3) アセスメントの概念	- 14 -
(4) 各側面を構成する要素.....	- 15 -

子どもの育ちのニーズ	- 16 -
健康	- 16 -
教育	- 16 -
情緒・行動の発達	- 16 -
自分についての自覚	- 16 -
家族・社会との関係	- 16 -
文化・社会的自己表現	- 17 -
自分で生きる知恵と技術	- 17 -
親の養育力	- 18 -
基本的な養育	- 18 -
安全確保	- 18 -
情緒的な温もり	- 18 -
刺激	- 18 -
指導としつけ	- 19 -
安定性	- 19 -
家族と環境要因	- 20 -
家族史と家族機能	- 20 -
親族	- 20 -
住居	- 20 -
就労	- 20 -
収入	- 20 -
社会との関わり	- 21 -
地域の人材や社会資源	- 21 -
(5)「親の養育力」を客観的に判断するために	- 22 -
6. 参考文献	- 23 -

【資料】「子どもが心配」チェックシート(岡山版)	24
Dr.Om Prakash Srivastava からの手紙(翻訳)	26
I 『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)』とは	27
II 『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)』の考え方	29
III チェックするカテゴリー, 項目及び細事項	29
IV 「支援を必要としている子ども」という考え	31
1 親の養育力が心配なカテゴリーへの支援	31
2 要支援モデルと, 必要となる支援の目安	31
「子どもが心配」チェックシート(岡山版) 使い方	33
I 「子どもが心配」チェックシート(岡山版) とは	33
1 はじめに	33
2 子どもを中心としたアセスメント	33
3 「カテゴリー」とは	33
4 信頼性と妥当性について	34
5 「強さ」と「困難」	34
II チェックシートの記入方法について	35
1 チェックシートの構成	35
2 記入の手順	35
3 評価を出す方法	37
4 記入にあたっての注意事項	38
III 項目別チェックポイント	39
1 基本的生活	39
2 安全・安心	42
3 愛 情	44
4 子どもの尊厳	46
IV 「子どもが心配」チェックシート 記入上の着眼点	49
1 基本的生活	49
2 安全・安心	54
3 愛 情	58
4 子どもの尊厳	60
V 「子どもが心配」チェックシート	65
VI 「子どもが心配」チェックシート 児童票	66

『「子どもが心配」チェックシート（岡山版）』について

(1) はじめに

平成19年1月に倉敷市において男の子が亡くなるという事故が発生しました。岡山県では、事故の検証を行うために岡山県子ども虐待防止専門本部に委員会（以下「委員会」という。）を設置しました。その委員会から、同年の6月4日に報告書が提出されました。そして同日に開催された子ども虐待防止専門本部会議において、虐待を受けている子どもへの支援及びその親への支援の充実等に関して、いくつかのことを合意しました。その1つが市町村の虐待防止体制を強化するための市町村ガイドラインの作成です。

平成19年度には、すでにみなさまに活用いただいている市町村と児童相談所の実務的な連携の方法を紹介した『市町村子ども虐待対応ガイドライン—子どもたちの最善の利益のために—』を刊行しました。

そして、平成20年度に、子どもと親やその家族と、子どもの支援に携わるすべての人たち（以下「子どもの支援者」という。）が使えることを目的としたアセスメントツールであるこの『「子どもが心配」チェックシート（岡山版）』（以下「チェックシート」という。）を開発しました。

(2) 児童相談に係る基準等作成グループ

岡山県子ども虐待防止専門本部会議での合意を受けて、児童相談に係る基準等の作成に関する検討を行うために、その本部会議の下に「児童相談に係る基準等作成グループ」が、平成19年8月1日に設置されました。

児童相談に係る基準等作成グループでは、合意した内容を実現するために、外部の有識者の力も借りながら研究や議論を重ねてきました。

このチェックシートや、前述した『市町村子ども虐待対応ガイドライン—子どもたちの最善の利益のために—』、そして、平成22年3月に作成した『子どものニーズを満たす親への支援～基本的な考え方とソーシャルワークの重要性～』は、児童相談に係る基準等作成グループの検討結果をまとめたものでもあります。

(3) 検証から明らかになったもの

委員会で行われた検証から、「児童相談所や市町村などで子どもと親やその家族を支援する担当者は、心理的虐待やネグレクトが考えられる場合でも、子どもへの影響を十分認識したうえで、親の支援課題ではなく、子どものニーズを的確に把握して、子どもを中心とした支援を組み立てることが重要であること」が明らかになりました。

心理的虐待やネグレクトは、状況が比較的容易に目で見て確認できる身体的な虐待に比べて、その実態を外からは把握しにくいものの、子どもの育ちにとって深刻なダメージを与えるものである点には変わりがないばかりか、その影響は長期に及び、顕在化したときには極めて重篤な局面に至ってしまっている場合もあるからです。

(4) ネグレクトへの支援

平成21年度に岡山県・岡山市の児童相談所が対応した子ども虐待の相談件数が1,021件でした。そのうち658件がネグレクトの相談です。

これは全体の約65%にあたります。ネグレクトの相談対応件数は、年々増加する傾向にあります。市町村が対応している子どもについても同様にネグレクトの相談が多いのではないのでしょうか。

そこで当グループでは、市町村ガイドラインを作成するにあたり、ネグレクトの状況下にある子どもを支援するためにイギリスで使用されているアセスメントツールである「The Graded Care Profile (GCP) Scale」を、イギリスの指標をベースにしながらも、日本の風土や生活習慣に適合させた『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)』として開発し、著作者(Dr.OmPrakash Srivastava)から使用許可を得ました。

このチェックシートの特徴は、支援を受ける子どもと親やその家族と、子どもの支援者が協働してアセスメントを行うことができることです。そして、今現在、子どもが置かれている状況が目で見えて分かり、具体的な目標を定めて支援を組み立てることができることです。

(5) 平成22年度改訂版作成にあたって

平成20年度にチェックシートを作成した後、平成21年度は、岡山県中央児童相談所と岡山県福祉相談センター(中央児童相談所・女性相談所・身体/知的障害者更生相談所)総務企画課が中心となり、普及啓発に努めてきました(研修/講演など開催/参加17回)。

また、高梁市子ども課、真庭市子育て健康推進課の協力を得ながら、実際の相談に使用した際の使用感などのヒアリングを行いました。

さらに、富山県、三重県、札幌市、横浜市、富良野市などの関係機関の方から使用について問い合わせをいただきました。

そのような活動を行う中で、いくつかの要望が挙がりました。例えば、チェックシートの表現です。現在のチェックシートの表現は子どもと親やその家族と子どもの支援者が協働して取り組むには、厳しい表現があるので修正してほしいという内容でした。

また、チェックシートを導入するタイミングや説明に苦慮しているので工夫してほしいという要望も挙がりました。それは、現在のチェックシートが「子ども虐待」という「特別な支援ニーズを持つ子どもとその親」が使うものというニュアンスが全面に出ており、それだけで親や家族に拒否されてしまいやすいというものでした。

そのような改善点と併せて「チェックシートは、虐待を受けている子どもだけではなく、すべての子どもを対象としており、親や家族が子育てを振り返る機会を提供できるので、ぜひ、簡易にセルフチェックできるパンフレットを作成してほしい」という新たな要望も挙げられました。

それらの要望を受けて、平成23年1月に岡山県保健福祉部子ども未来課が事務局となり、児童相談所の若手職員を中心とした『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)パンフレット版作成ワーキンググループ』が設置されました。

そして、“子ども中心”ということを大切にして、子どもと話し合いながら、親が子育てをセルフチェックできるパンフレット版を作成するとともに、そのベースとなるチェックシートの改訂にも取り掛かりました。それがこの『平成22年度改訂版「子どもが心配」チェックシート(岡山版)』(以下「改訂版チェックシート」という。)です。

改訂のポイントは、原文のニュアンスをさらに活かす方向で、改めて全体の文章表現を修正したことです。

改訂版チェックシートは、『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)パンフレット版』と併せて使用していただくことで、親や家族を含めた子どもの支援者による支援が、より一層、子どもを中心としたものになるでしょう。

(6) 今後の課題

改訂版チェックシートは、まだ完全に完成されたものではありません。

今後は『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)パンフレット版』と併せて基礎的調査を実施し、より良いものを目指していく予定です。また、携帯電話を利用して手軽に使用できるチェックシートの作成も検討しています。

そのような取り組みを行うためには、市町村の相談窓口で子どもと親やその家族の支援にあたっているみなさんの協力が不可欠です。

私たちは、これからも引き続き、依頼があれば一緒に研修を行いたいと考えていますし、市町村のみなさんと一緒にチームを組んで、子どもを中心としたより良い支援を創るための取り組みを行いたいと考えています。

ぜひ、一緒に取り組みましょう。

1.地域での支援の重要性

- 地域で子どもの暮らしを支えているすべての大人が、支援の枠組みを共有するとともに、それぞれが担うべき役割を明確化して、子どもと親やその家族と一緒に効果的な支援を創っていくことが重要である。

(1) 地域での支援の重要性

児童福祉法の改正により、平成17年4月からは、市町村にも子ども虐待の相談窓口が設置されることになりました。現在、岡山県では県をはじめ、すべての市町村に子どもを守る地域ネットワーク（要保護児童対策地域協議会）が設置されています。

子どもたちには、それぞれ地域での暮らしがあります。子どもたち一人ひとりの暮らしの安定を図り、最善の利益を確保するためには、行政機関をはじめ、教育機関、保育所、民生・児童委員、愛育委員、NPOから塾の先生やスポーツ少年団の指導者、学童保育のスタッフに至るまで、地域で暮らしを支えている子どもの支援者（子どもの支援機関）、すなわちすべての大人が、お互いに支援の枠組みを共有するとともに、それぞれが担うべき役割を明確化して、子どもや家族と一緒に効果的な支援を創っていく必要があります。

(2) 市町村の役割

市町村の役割は、みなさんの地域で暮らすすべての子どもが、安心して家族と暮らしていけるような支援を創ることです。

なぜなら、市町村には子どもとその家族にとって利用しやすい福祉・保健・教育の一連の支援がそろっており、それに加えて子どもの暮らしを支えている身近な地域の支援という「強み」があるからです。

地域のことを一番知っているのは市町村です。

(3) 一貫した支援を行うために

地域で暮らす子どもと親やその家族に対して、市町村や児童相談所などは一貫した支援を行わなければなりません。

そのためには、各機関の子どもの支援者が共通の認識を持ち、一定の方向に向かって支援をしていく必要があります。これから紹介する改訂版チェックシートは、それを助けるツールにもなります。

2.子どもの最善の利益

- “子どもの最善の利益”とは、「子ども期を安心して過ごすこと（安全の確保）」と「その子どもが持っている可能性を発揮すること」である。

(1) “子どもの最善の利益”とは

“子どもの最善の利益”という言葉聞いて、みなさんは具体的にどのようなことを思い浮かべるでしょうか。

親にかぎらず、すべての大人は、子どもの権利を擁護し、それを保護する責任を負っています。自分たちが暮らす地域の子どもたちのこととなれば、なおさらその責任の重さを感じるのではないのでしょうか。

私たちは、“子どもの最善の利益”とは、「子ども期を安心して過ごすこと（安全の確保）」と「その子どもが持っている可能性を発揮すること」だと考えています。

この概念の前半部分、つまり「子ども期を安心して過ごすこと（安全の確保）」とは、「子ども期に、いじめや虐待などの不利益を受けることなく過ごすこと」を意味しています。後半の「その子どもが持っている可能性を発揮すること」とは、「子どもが自分らしく、豊かに成長・発達していくことを認め、これを大切にすること」を意味しています。

(2) “子どもの最善の利益”を確保するために

“子どもの最善の利益”を確保するという事は、市町村や児童相談所などが支援したことによって「子どもにとって良い状況をもたらす」ということです。

子どもと親やその家族の支援を行うとき、「子どもと対話する」方法をそれぞれ工夫して取り組んでいることと思います。

「子どもと対話する」ということは、「子どもの気持ちや思い、希望、意見をしっかりと聴くこと」と「(子どもの支援者である)自分の役割を伝えること」です。その方法は、子どもの発達状況にあったものを工夫する必要があります(例えば、「子どもの言葉、表情、しぐさなどから思いを受け止める」「絵を描くなど様々な道具を用いる」など)。

特に家族と離れて暮らしている状態にある子どもたちについては、“子どもの最善の利益”を確保するためのより手厚い支援が必要です。そのことについては『子どものニーズを満たす親への支援～基本的な考え方とソーシャルワークの重要性～』で詳しく説明していますので参考にしてください。

(3) “子どもの最善の利益”と児童相談所

児童相談所は、本来、子どもと親やその家族に対して福祉的な援助活動を行う機関であり、「その子どもたちの身体的・情緒的・知的健康と発達とを増進させること」が役割です。

しかし、法的な権限を有する児童相談所は、今後、より一層、裁判所や警察との連携を充実させながら、困難で深刻な状況に至ってしまった子どもを保護し、家族に介入する役割を担っていくことになると思われます。

そのため、これからは、子どもと親やその家族に身近な行政機関である市町村や地域の支援がより重要になってきます。

市町村は、児童相談所を兼ねているわけではありません。子どもの暮らしを支えている身近な地域の支援という市町村の「強み」を活かし、既存の枠にとらわれない子どもを中心とした福祉的な援助活動を創り、展開していくことが望まれます。

3.子どもと親

○ 子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）

第9条

- 1 締約国は、児童がその父母の意思に反してその父母から分離されないことを確保する。ただし、権限のある当局が司法の審査に従うことを条件として適用のある法律及び手続に従いその分離が児童の最善の利益のために必要であると決定する場合は、この限りでない。このような決定は、父母が児童を虐待し若しくは放置する場合又は父母が別居しており児童の居住地を決定しなければならない場合のような特定の場合において必要となることがある。
- 2 すべての関係当事者は、1の規定に基づくいかなる手続においても、その手続に参加しかつ自己の意見を述べる機会を有する。
(以下、略)

(1) 子ども

子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）は、18歳未満のすべての人の保護と基本的人権の尊重を促進することを目的として、1989（平成元）年秋の国連総会で全会一致により採択されました。

日本は、1990（平成2）年9月、この条約に署名し、1994（平成6）年4月に批准を行っています。

この条約では、子どもの食べ物、思いやり、住居などの基本的欲求は、家族の中で実の親もしくは、それに代わる親から得られる身の安全や、一貫性と持続性のある愛情や世話によって充足されることがもっとも望ましいと考えられています。

子どもは、自らの健康や教育のニーズが満たされることを期待し、地域において価値ある一員であると感じることができる権利も有しています。

家族が子どものニーズを満たすことができず、地域の人たちや行政機関から「子どもが心配」と思われるような事態や、相談が寄せられた場合は、“子どもの最善の利益”に配慮した支援を受ける権利を有しています。

また、子どもたちは自分自身の人生に影響を及ぼす事柄の決定に際して、年齢や理解力を考慮したうえで自分たちに相談がなされ、決断を迫られるのではなく、意見が尊重される権利も有しています。

ですから、できうるかぎり、子どもは、起こってくる事柄に対して自分はある程度の影響力を持っているのだと感じることができるよう支援をしていく必要があります。

(2) 親

親は、自分の子どもの権利を擁護し、それを保護する責任を負っています。親は“子どもの最善の利益”が確保されるように努めていますが、やむを得ない事情で、その責任を果たすことが難しくなる場合があります。

そのような場合、相談を受けた子どもの支援者は地域にある資源を活用し、親の責任を果たすことができるように支援を創っていく必要があります。

市町村や児童相談所などにおいて支援を創っていく担当者（以下「子どもを支援する専門職」という。）は、親に対して自分たちの法的な立場や権限、活動内容、支援を提供する理由を伝えなければなりません。また、常に子どもの親と建設的な関係を保つように努力もしなければなりません。

4. 支援を一緒に創る

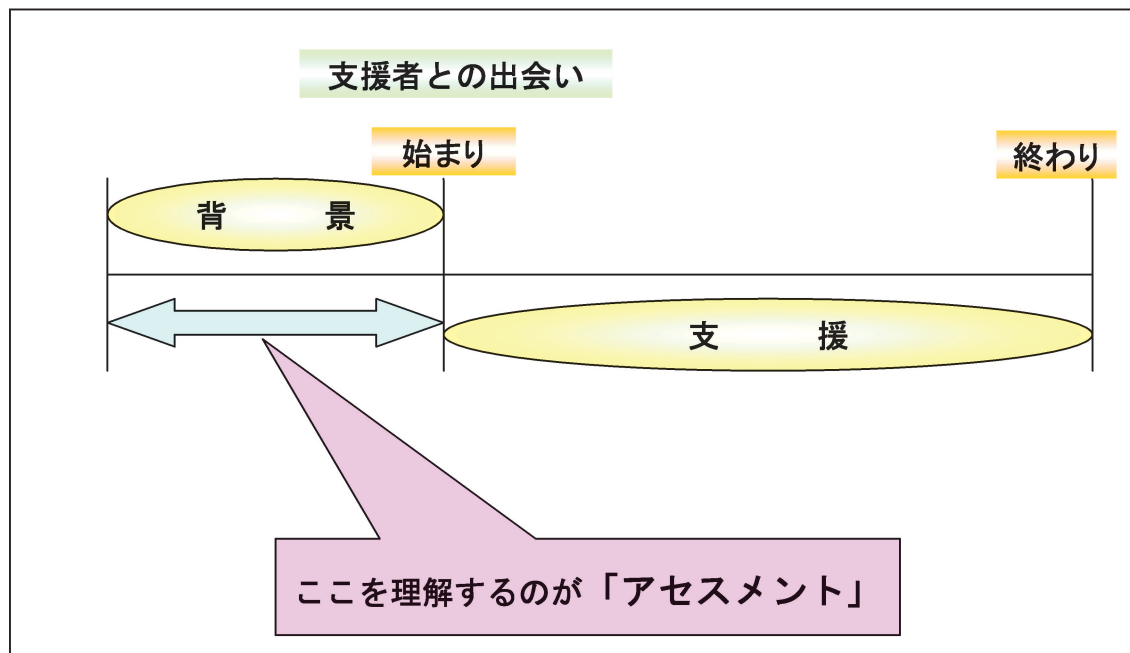
- 子どもと親やその家族を支援するうえでのアセスメントとは、「子どもと親やその家族の状態像を捉えること（理解すること）」である。

(1) 「アセスメント」とは

「アセスメント」とは、子どもと親やその家族のこれからの暮らしをどのようにしていくかを見通し、必要ならばどのような支援をしていくのかを明らかにしていくための過程です。

支援を必要としている子どもと親やその家族は混乱していて、どのようにしたらよいのかわからなくなっています。

子どもを支援する専門職は、支援を必要としている子どもと親やその家族から適切な情報を聴取し、それらを整理して「あなた方は今こういうことですよね。ここで困っているのですよね。」ということを知りやすく示すことができます。



- 子どもと親やその家族の「強さ」を捉えること。

(2) 「強さ」と「困難」

子どもを支援する専門職は、子どもと親やその家族の弱さや問題（以下「困難」という。）についてはよく捉えています。「強さ」は見落としがちです。

特に支援を必要としている子どもと親やその家族は、劣等感を持っているかもしれません。子どもを支援する専門職が暮らしの場面をよく見て「これはできていますね。」と伝えることで、子どもとその家族は自分たちの良さ（強さ）に改めて気づくことになります。

- 一方的な支援になっていないか常に確認すること。

(3) ペースの確認

子どもを支援する専門職は、自分たちはその方法がわかっている支援を受ける子どもと親やその家族は知らないという前提で支援を進めてはいないでしょうか。

子どもを支援する専門職は、自分たちのやり方で一方的に支援を行っていないかということを常に確認する必要があります。

- アセスメントをする目的を明確にして、子どもと親やその家族に伝えること。

(4) 目的を明確にする

子どもを支援する専門職は、子どもと親やその家族に対して「何のために話を聴くのか」きちんと説明をすることが必要です。それを行うことで、後の支援が生まれてきます。

支援を一緒に創っていく子どもと親やその家族に説明をしていくことは、子どもを支援する専門職にとって、一番エネルギーが必要なことかもしれません。しかし、説明をすることは次の支援を行う基礎となりますので、丁寧に行いましょう。

- 子どもと親やその家族の情報は、多角的な方向から収集し、子どもと親やその家族の実情に迫る必要がある。

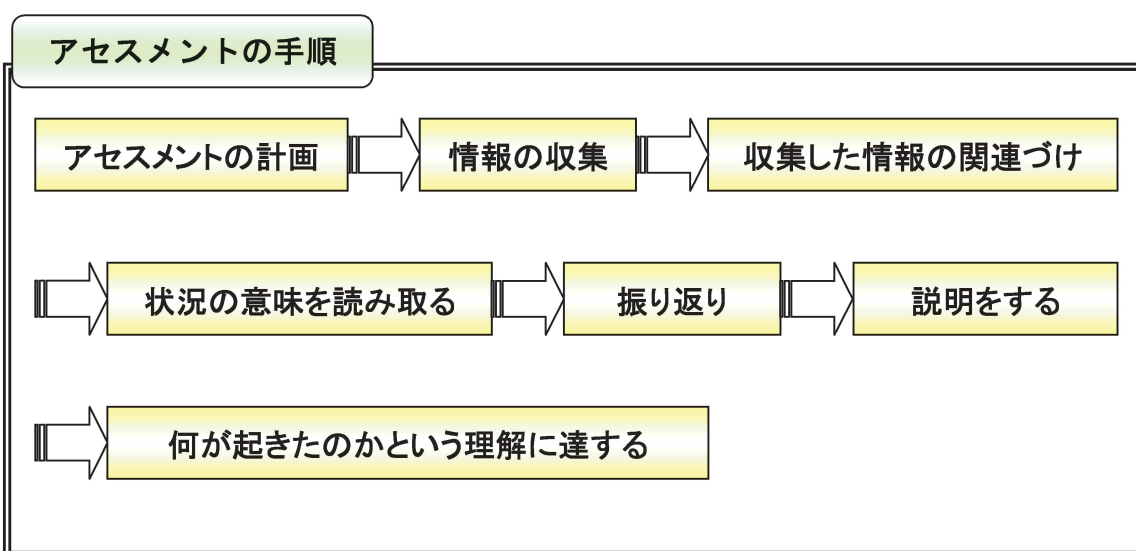
(5) 情報の収集

子どもを支援する専門職は、支援を必要としている子どもと親やその家族の情報を収集し、整理して、背景を広く深く理解したうえで専門的に判断することが必要です。

子どもを支援する専門職が行う情報の収集は、言い換えれば、専門的な判断をするために必要な情報を集めているということになります。

雑多な情報を整理するためには、様々なツールを用いますが、残念ながらツールそのものが専門的な判断の代わりにはなりません。

子どもと親やその家族の情報は、多角的な方向から収集し、子どもと親やその家族の実情に迫る必要があります。そして、その後の専門的な判断はチームで行います。また、状況に応じてスーパーバイザーの助言を求めることも大切です。



- 子どもの支援者は、子どもと親やその家族と一緒にアセスメントや支援計画の策定を行うことが望ましい。

(6) 子どもと親の参加

支援を一緒に創っていくことにおいてもっとも大切な点は、当事者である子どもと親やその家族が参加することです。

アセスメントや支援計画を策定するには、支援を受ける子どもと親やその家族が参加する必要があります。なぜなら、当事者である子どもと親やその家族から暮らしの状況を聴き取り、子どもにとってもっとも良い結果になるような支援を親やその家族も一緒に創ることが大切だからです。

そのことは、結果として子どもと親やその家族が本来持っている“支援を利用する力”を引き出すことにつながるのです。

一定の期間、支援を行った後にも、子どもを支援する専門職が子どもと親や家族と一緒にその支援が有効であったかどうかを評価することが必要です。

もちろん、アセスメントや計画策定を子どもと親やその家族と一緒にするといっても、意思決定に際して持つべき機関の責任を免れるものではありません。むしろ機関としての意思決定を当事者も含めて共有するために、子どもと親やその家族の意見は求めるべきであり、考慮されるべきという意味です。

ただし、法的な権限を行使して対応しなければならないレベルの虐待、例えば身体的虐待や性的虐待などに関して、その直接の加害者である親とアセスメントや計画策定を一緒に行うことはできません。しかし、子どもは当然参加する権利を有していますし、非加害親も同様です。非加害親の参加・協力は、子どもがその被害から回復するうえで欠かせません。

非加害親の参加・協力を進めていくためには、児童相談所の職員が配偶者からの暴力（以下「DV」という。）の本質とは何かについて、しっかりとした知識を身につけておくことが大切です。

(7) 支援機関の協働

“支援機関の協働”とは、立場の異なる組織や人どうしが、明確な目的のもとに対等な関係を結び、それぞれの得意分野を活かしながら、連携し協力し合うことです。

つまり、地域で子どもの暮らしを支えている子どもの支援者、市町村、NPO、児童福祉施設、児童相談所などが明確な目的のもとに、対等な関係を結び、それぞれの得意分野を活かしながら、連携し協力し合うこととなります。

5. 『「子どもが心配」チェックシート（岡山版）』

(1) 『「子どもが心配」チェックシート（岡山版）』とは

チェックシートは、The Graded Care Profile (GCP) Scale（以下「G C P」という）をもとに開発しています。G C Pは、子どもの育ちにとって不可欠と考えられる領域について、親がどの程度配慮できているかを客観的に測定するために、イギリスで開発されました（図-1）。

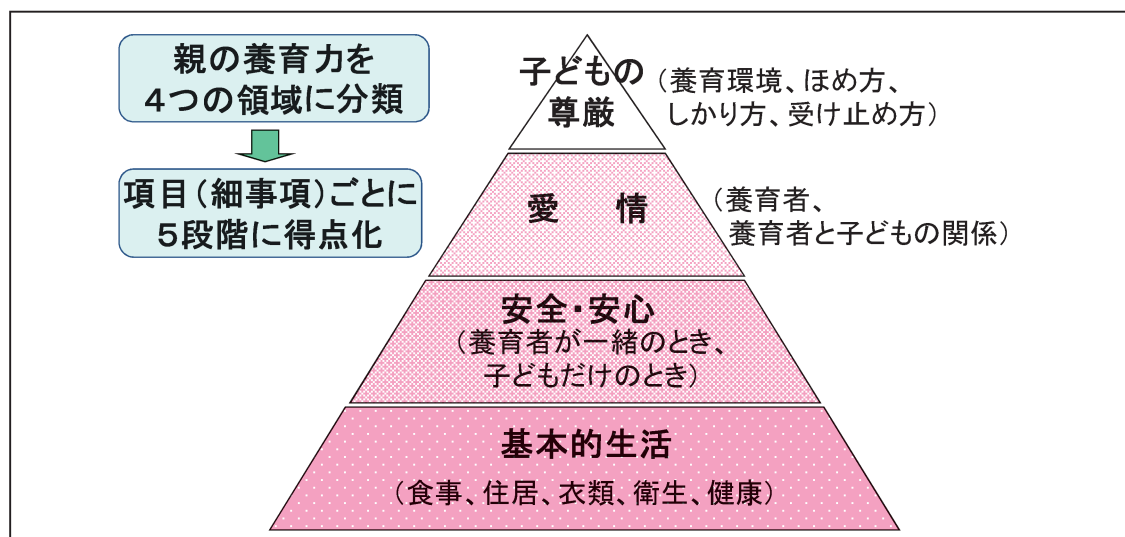
G C Pは、なかなか目には見えにくい親の養育力を心理学者マズローの欲求階層説に沿って4つの領域に分類しています。チェックシートを開発するにあたり、私たちはその領域を「基本的生活」「安全・安心」「愛情」「子どもの尊厳」と翻訳しました。

G C Pでは、それぞれの領域について、客観的に測定できる項目及び細事項を設定し、細事項ごとにアセスメントを行って5段階に得点化することにより、親の養育力を、親を中心としてではなく、子どもを中心とした視点で子どもと親やその家族と、子どもの支援者や児童相談所の職員が協働して確認することができるようになっています。

そうすることにより、親が子どもに対してできていることと、できていないことが領域別に明らかとなり、子どもが置かれている状況の理解だけでなく、今後の支援の目標を設定し、実践することが可能となるからです。

チェックシートは、その点も踏まえながら、“子どもの最善の利益”が確保されているかという観点から判断する目安となるように開発しています。

図-1 領域の構成（G C P）



“The Graded Care Profile (GCP) Scale ～ A qualitative scale for measure of care of children ～”をもとに、岡山県児童相談に係る基準等作成グループが翻訳/作成(2008)

(※「養育者」とは、子どもの親やその家族と児童養護施設/里親等の子どもの専門職を含んだ総称です。)

(2) 『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)』の目的

チェックシートは、初期の段階で子どもの安全を確保することを目的としたリスクを中心にアセスメントするツールではありません。

当面の子どもの安全が確保された後も、子どもの親やその家族によって十分に満たされていない子どもの育ちのニーズへの支援を検討するため、さらにアセスメントを行う際に用いることを目的としています。

(3) アセスメントの概念

チェックシートの使い方などの説明をする前に、イギリスにおいて、幾多の虐待死事例の検証を経て、1999(平成11)年から新たに導入されたアセスメント概念を紹介します。GCPはもちろん、イギリスにおける子どもの福祉政策は、このアセスメントの概念を踏まえて立案されていますので、チェックシートを活用する前に、必ず読んでください。

また、岡山県でもこのアセスメントの概念を子どもの支援に積極的に活用するため、現在、『子どものための総合情報システム』を開発中(平成23年7月稼働予定)です。

また、このアセスメントの概念は『子ども自立支援計画ガイドライン』(平成17年6月発行、児童自立支援計画研究会編)にも、「海外におけるアセスメント」として紹介されています。

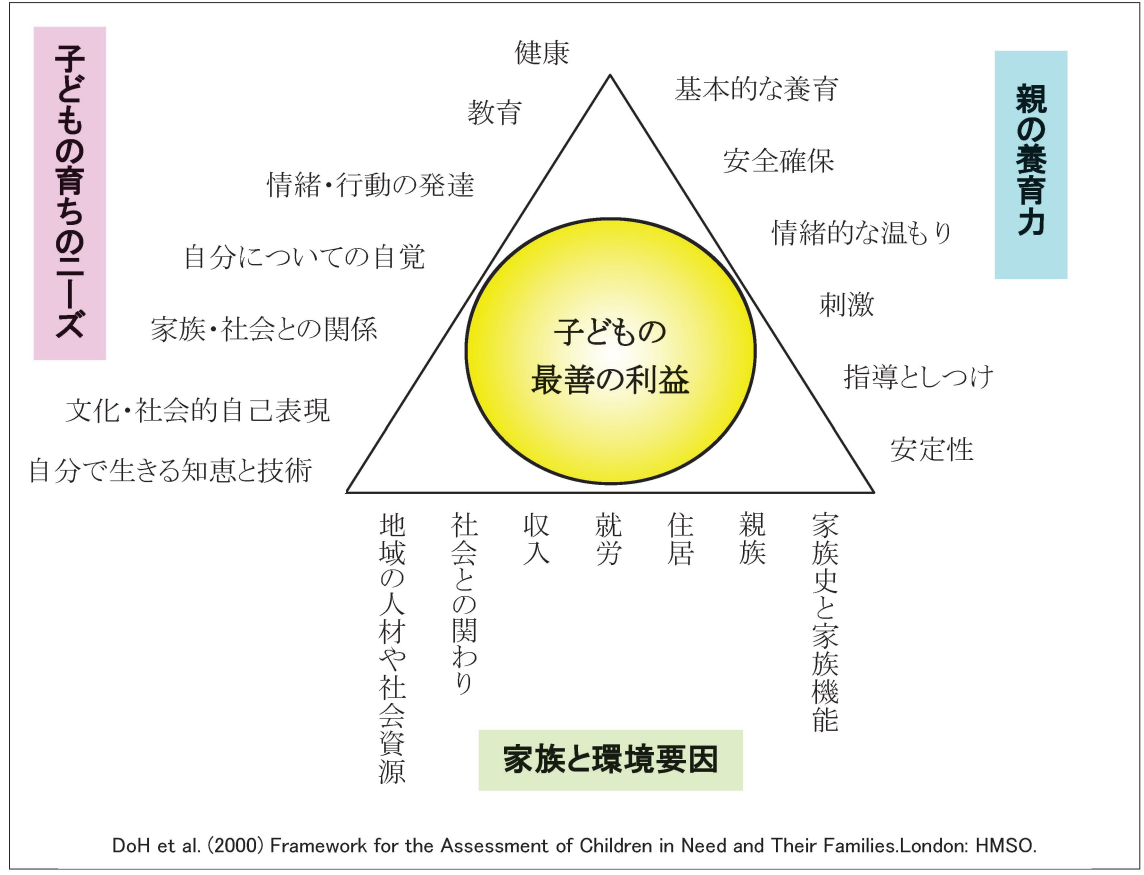
このアセスメントの特徴としては、現在のリスクをチェックするためのものではなく、必要な情報を収集し、「強さ」と「困難」を把握することを通じて支援を組み立てるためのプロセスであるという点が強調されています。

そして、以下の視点を持っています。

- とかくネガティブな部分に目を奪われがちだが、家族の「困難」だけではなく「強さ」も見て、足りない部分の支援を検討すること。
- 子どもと親やその家族の支援に携わる関係機関が、同じ概念を用いてアセスメントを行い、一貫した支援につなげていくこと。
- アセスメントは、1回かぎりとはせず継続して行うこと。

このアセスメントの概念は、下記の3つの側面から成り立ち、それぞれの側面はアセスメントすべき主要な要素から構成されていて、多面的に把握することができます。

- ① 子どもの育ちのニーズが満たされているか。
- ② 親の養育力かどうか。
- ③ 家族と環境面かどうか。



(4) 各側面を構成する要素

アセスメントは、「子どもの育ちのニーズ」「親の養育力」「家族と環境要因」の各側面を構成する要素について調査・情報収集を行い、最終的には総合的な判断で、どのような支援が必要なのかを決定する仕組みになっています。

ここでは、各側面を構成する要素を紹介します。

子どもの育ちのニーズ

健康

心身の健康維持だけではなく、病気や障害への適切な配慮や健康に関する情報提供はありますか。

例えば、医療、栄養、運動、必要に応じた予防接種や健診の機会、成長した子どもには、健康に影響を与える身近な問題についての情報提供と助言が行われているでしょうか。

教育

知的発達を促進する機会（遊ぶこと、他の子どもと関わること、本を読むことなど自分で学ぶための技能を伸ばしたり関心を満たしたりすること）や、成功・達成感の体験の機会が与えられているでしょうか。

知育や知的発達、向上に関心があり、子どもの状況に応じた教育上の配慮をする大人がいますか。

情緒・行動の発達

子どもが成長するに伴い、親や養育者、その他の人への感情や行動で表す反応は適切でしょうか。例えば、幼い頃に示す愛着の程度や質、性格気質の特徴、環境の変化への適応、ストレスへの反応、自己規制がどの程度できているかなどはどうでしょうか。

自分についての自覚

子どもが、「自分は他の人と違う存在で、価値ある存在なのだ」という感覚が、成長とともに育まれているでしょうか。

自分や自己能力への肯定的な感情、家族や同年代の仲間、地域社会への帰属感と受け入れられているという感覚を持つことができているでしょうか。

家族・社会との関係

親や養育者、きょうだいと安定した関係は持てているでしょうか。またその関係は良好でしょうか。

年齢を重ねるにつれて同年代の友人との友情や、人生に影響を及ぼす家族以外の人的重要性は増しているでしょうか。そしてそのことに対する家族の反応はどうでしょうか。

また、人の立場で考える力、共感する力の発達はどうか。

文化・社会的自己表現

自分の外見や行動，障害などが人からどのように見られていて，どのような印象を与えているのかということについて，子ども自身の理解が深まっているでしょうか。

年齢や性別，文化にあった服装をしていますか。また，清潔や衛生に気を配っているでしょうか。また，そのことについて，親や養育者は，時と場に応じた身なりや行動をするように導いているでしょうか。

自分で生きる知恵と技術

自立に必要な生活力（幼い段階での生活力とは，衣服の着脱，食事，自信をつける機会，家族から離れて行動する力。成長した子どもについては，ひとりで身の回りのことをする力），情緒力，伝達力を身につけているでしょうか。

例えば，社会的な問題解決能力（困ったときに対応する力）を身につけられるよう育むこともその中に含まれます。

この力を評価するにあたっては，子どもの持つ障害やその他の要因が子ども自身の持っている自立する力の発達に与える影響や，それらの要因を問題化する社会的状況を考慮する必要があります。

親の養育力

基本的な養育

子どもの健康状態、発育及び発達に応じて必要な健診や医療を受けさせているでしょうか。基本的な生活（食事や飲み物、住居、清潔で適切な衣服、衛生の確保はできているか）もこの要素に含まれます。

安全確保

子どもが危害や危険から守られるように気をつけているでしょうか。例えば、虐待や危険から守り、危害を加えるおそれのある大人や子どもに近づけない、自傷行為をさせないなど。また、家庭の内外で事故を防止し、安全の対策をとっているでしょうか。

情緒的な温もり

子どもの情緒的な欲求に適切に応え、子ども自身が「自分はかけがえのない存在である」という自己肯定感が育まれるように働きかけていますか。

大切な大人と、安定した温もりのある関係を継続的に持ちたいという子どもの気持ちを受け止め、理解して、対応しているでしょうか。例えば、子どもを認め、誉め、励まし、適度なスキンシップをすることなどがあります。

刺激

励ますなど意識的に働きかけて子どもの学習意欲や知的発達を促したり、社会活動への参加を勧めていますか。子どもとのやりとりや会話、表情やしぐさ、問いかけに応える、子どもの生活や学びの基礎となる遊びを促し、一緒に遊び、教育の機会を与える、そのような働きかけを通じて子どもの認知の発達を高め、潜在的な力を引き出していますか。

また、成功体験を与え、学校などの教育機会を保障し、あきらめないで挑戦しようとする力が育まれているでしょうか。

指導としつけ

子どもが、外的な規範に依存しないで自分なりの価値観を持ち、他者の中で適切な行動をとれる自立した成人になるよう育てていますか。

親は、適切な行動や感情の抑制、他者との関係のあり方ややっていいことといけないことの区別となる手本を自ら示しているでしょうか。また、子どもが自らやろうとしていることに対して「無駄である」とか「よい結果にならない」などと干渉したり、「危ないからやめなさい」と言うなど過保護になっていませんか。

さらに、理性的な問題の解決方法（怒りのコントロール、他者への思いやりなどを含む）が身につくように導いていますか。

安定性

家族の中に様々な生活の変化（離婚や死別など）があつたとしても、子どもと親や養育者との愛着関係が育まれ、発達に最適な環境が整えられていますか。

また、子どもの成長に伴い親は対応を変えて、適切にその関係性を発展させていますか。加えて、子どもが大切だと思ふ人たちと連絡を取れるようにしていますか。

家族と環境要因

家族史と家族機能

その世帯に誰が同居し、子どもとどう関わっているかということ、家族や世帯の構成の大きな変化、親の子ども時代の経験、人生の重要な節目や家族にとってのその出来事の意味、きょうだいとの関係やその影響など家族機能の性質や、世帯にいない親も含めて、親の長所や問題点、別れた親どうしの関係はどうでしょうか。

親 族

子どもと親が血縁関係にあるかどうかにかかわらず、不在の人（離婚や死別など）も含めて、誰を家族と認めているでしょうか。それぞれの人が家族の中で具体的にどのような役割を果たし、どれほど大切なのでしょうか。

住 居

住居には、子どもと家族にとって年齢や発達にふさわしい基本的な生活用具や設備（水道・暖房・衛生設備・調理器具・寝具などが整い、清潔・衛生・安全性が確保されている）などを備えているでしょうか。それらが整っている場合といない場合、子育てに及ぼす影響はどうでしょうか。

また、障害がある子どもやその家族にとって適切な構造になっているでしょうか。それらのことを住居の中と外、周辺部分を含んで評価をします。

就 労

世帯の中で、誰がどのように働いているのでしょうか。その就労形態に変化はないのでしょうか。また、そのことが子どもに影響を及ぼしているでしょうか。

仕事、あるいは失業を家族はどう見ているのでしょうか。それが子どもとの関係にどう影響しているのでしょうか。子ども自身が仕事をした経験があるのか、もしあればその影響も含めて評価します。

収 入

一定期間家族を養えるだけの収入があるかをみます。収入はあっても、家族がその恩恵を十分に受けているでしょうか。その収入は、家族の最低限の生活を支えるに十分な額でしょうか。家族が利用可能な収入の不足を補う社会資源はどのように活用されているでしょうか。子どもに影響をもたらすような家計の行き詰まりはあるでしょうか。

社会との関わり

家族が、隣人や地域などどのように関わり、それが子どもや親にどのような影響を与えているでしょうか。例えば、近所付き合いや知人、友人とはどのように付き合い合っているでしょうか。また困ったときに支援してくれる地域の人々はいますか。

また、家族はそれらの人々との関わりを、どの程度重要と評価しているでしょうか。

地域の人材や社会資源

地域にかかりつけの医療機関や保育所、学校、交通機関、店舗、レクリエーション施設といった誰でも利用できる施設やサービスがあるかどうかをみます。

また、それらの利用しやすさ、交通の便、サービス内容、障害のある子どもやその家族が利用できる設備があるか、さらにはその質もみます。

(5) 「親の養育力」を客観的に判断するために

チェックシートは、親の力量（以下「親の養育力」という。）を測定するためのツールです。

子どもの支援に携わる機関（以下「子どもの支援機関」という。）は、多くの情報を保有しています。そのうち、親に関する情報の量は膨大です。しかしながら、その内訳は親との面接、通話などの記録が多く、親の子育てに関する養育力をアセスメントするうえでは、必ずしも重要でないものも含まれています。

また、親との関わりが長期間に及んでいく中で、親自身が、少しでも改善する傾向を示したり、子どもの支援機関の助言を聞き入れる態度を見せたりすると、それが「親の子どもに対する接し方の変化や子ども自身の変化にどのように結びついているか」という部分の評価よりも、「親は頑張っている」「変化がみられる」などという判断に陥る可能性があります。

チェックシートは、そのような親の養育力を客観的、多角的に測定するための実用的なツールといえます。

6. 参考文献

- Dr.Om Prakash Srivastava,Richard Fountain,Patrick Ayre and Janice Stewart(1995)“The Graded Care Profile (GCP) Scale～A qualitative scale for measure of care of children～”: Bedfordshire and Luton Community NHS Trust
- Department of Health et al. Framework for the Assessment of Children in Need and Their Families.London:HMSO (2000)
- イギリス保健省編/ 森野郁子監訳, 南 彩子, 武田加代子訳「児童虐待－ソーシャルワークアセスメント」1992年
- イギリス保健省・内務省・教育雇用省著/ 松本伊智朗, 屋代通子訳「子ども保護のためのワーキング・トゥギャザー－児童虐待対応のイギリス政府ガイドライン－」2002年
- 水島真寿美, 福 知栄子/ 「ネグレクトケースへの支援－ソーシャルワークの視点とアセスメント－」福祉おかやま 2004年
- 中野敏子, 福 知栄子, 瀧澤久美子, 森山千佳子/ 「(誰のため何のため) どう活かすあなたの支援『基本のキ』－障害のある学齢期の子どもとともに－」大揚社 2005年
- 中野敏子, 福 知栄子, 梅野潤子, 瀧澤久美子, 森山千佳子/ 「(誰のため何のため) こうしてみようあなたの支援－ふりかえる・しっかり考える・進む－」大揚社 2009年
- 小林美智子, 松本伊智朗/ 「子ども虐待－介入と支援のはざまで－」明石書店 2007年
- 松本伊智朗/ こども未来「子ども虐待・DVの予防と育児支援・健全育成」2006年

GRADED CARE PROFILE (GCP) SCALE

**A qualitative scale for measure
of care of children**



To
Masumi Mizushima
for Kumashi Children's
Consultation Office.
O. P. Srivastava



DR. LEON POLNAY,
Professor in Community Paediatrics
University of Nottingham
Queen's Medical Centre
NOTTINGHAM

DR. O. P. SRIVASTAVA,
Consultant Community Paediatrician
Bedford & Luton Community NHS Trust
Edwin Lobo Centre
633 Dunstable Road
LUTON, LU4 8QR

Bedfordshire and Luton
Community NHS Trust 

LUTON

BOROUGH COUNCIL

The Graded Care Profile (GCP) Scale

～ A qualitative scale for measure of care of children ～

BY Dr.Om Prakash Srivastava, Richard Fountain, Patrick Ayre and Janice Stewart

© Copyright O.P Srivastava,1995

作 成：岡山県児童相談に係る基準等作成グループ 2008

改訂：「子どもが心配」チェックシート(岡山版)パンフレット版作成ワーキンググループ 2010

Dr. Om Prakash Srivastava からの手紙 (翻訳)

2008年6月20日

日本国〒710-0052 岡山県倉敷市美和1-14-31
岡山県倉敷児童相談所

The Graded Care Profile (GCP)について

水島様へ

2008年6月2日付けで「Graded Care Profile Scale」の使用許可申請のお手紙をいただき、誠にありがとうございました。貴殿の非常に重要なプロジェクトにこのツールを使用していただくことに関しては全く問題ありません。ただし、ツールの出典を明らかにするために、文面のどこかに出典・参照文献を記載していただくようお願いいたします。

これは、ツールの品質を保全するためと著作権の条件を満たすためなので、ご了承ください。このツールの使用を希望される方にこちらからお金を要求することはありません。

また、掲載していただくのは「このプロジェクトにおけるこのツールの使用については、著者から許可を取得した」というような短い文章で十分です。念のため、写しを私まで送付していただくようお願いいたします。

話は変わりますが、貴殿の重要なプロジェクトにこのツールが役立つことを大変うれしく思っております。このツールを有効活用するためには、日本語に翻訳する必要があると推察しておりますし、実際にそうされると思っております。もし何かお手伝いできることがありましたら、遠慮なくご連絡いただくようお願いいたします。

私は現在、2004年に実施した調査の結果に基づき、更新版を作成しているところです。完成次第、貴殿まで送付いたします。ここイギリスで、我々「Luton Borough Council」以外で、このツールの使用を希望する組織・団体等のために、無料で研修を実施しております。ルートンでは、家族支援センターのスタッフによってこのツールが使用されており、親・保護者とともにも初期の評価を行います。親・保護者の養育能力が不足する領域があった場合（3点、2点または1点）には、その領域を改善するための目標を設定し、少しずつ改善できるよう（例えば、1点から2点、2点から3点、3点から4点など）努力していきます。GCPの点数の高い領域がある場合（5点または4点）には、親・保護者をほめることによって、養育能力の不足する領域を改善するために力を尽くす動機となるのがスタッフの調査結果で判明しています。少しずつ改善を重ねていくことにより、目標は達成できると考えられています。

我々の説明マニュアルをお持ちかどうか分かりませんが、念のために同封いたします。

貴殿のプロジェクトの成功を祈っております。その進展を把握できるように、今後とも連絡をいただけるようよろしくようお願いいたします。

Dr. Om Prakash Srivastava.

オム・プラカッシュ・スリヴァスタヴァ

I 『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)』とは

『The Graded Care Profile (GCP) Scale』^{※1} (以下「GCP」という。)は、子どもの育ちに必要な領域において、親や養育者がうまくできている領域と、心配に感じたり、時には専門機関の支援が必要かもしれない領域を客観的にチェックするためにイギリスで開発されました。

『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)』(以下「チェックシート」という。)は、イギリスで実際に使われているGCPをもとに、日本の風土や生活習慣に合うように開発したものです。

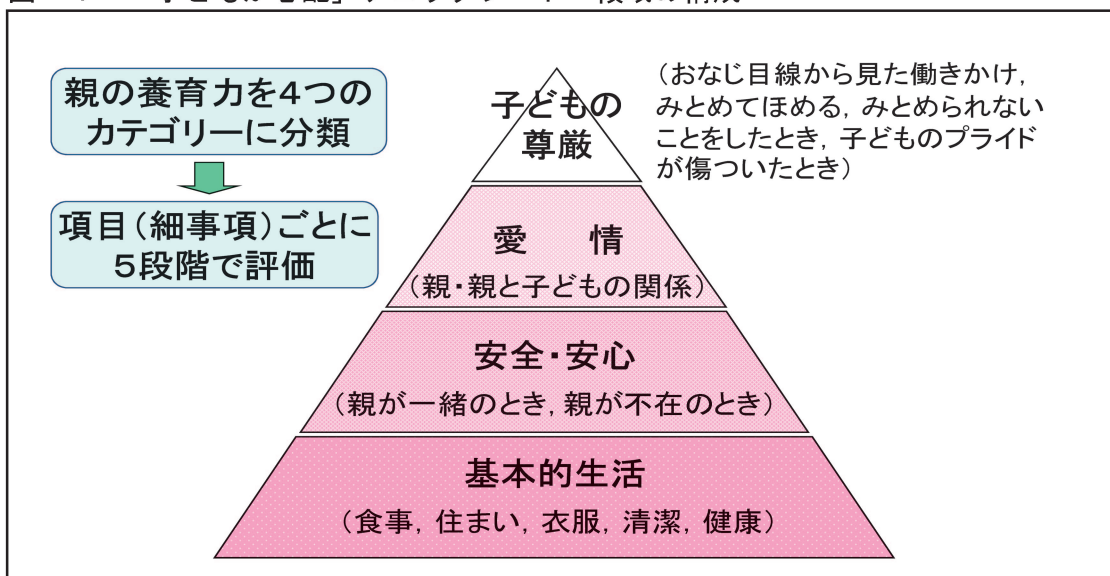
チェックシートはGCPと同様に、日々の暮らしの中で、なかなか意識することが難しい子どもへの関わり方を「基本的な生活」「安全・安心」「愛情」「子どもの尊厳」の4つのカテゴリー(※GCPでは「領域」と呼んでいましたが、チェックシートでは「カテゴリー」と呼びます。)に分類しています。

4つのカテゴリーは、さらに子どもと親が一緒に行う様々な活動ごとに分けられています。そして、それぞれの活動を子どもの育ちを中心にした視点から5段階で評価することで、親(※GCPでは「親や養育者」と呼んでいましたがチェックシートでは、「親」という呼び方に統一しています。)を中心としてではなく、子どもの育ちを中心に子育てを確認することができます(図-1)。

このチェックシートを使うことで、親がうまくできているところと、心配なところを確認することができ、親だけではなく、子どもに関わる様々な大人や専門機関の人々が一緒に、これからの子どもの暮らしのことを考えるときにも役立てることが出来ます。

また、様々な立場の子どもの支援者が、「子どものどこが心配なのか」という認識を共有することができ、必要ならば児童相談所などの子どもの支援を行う専門機関にそれを相談(送致)することも出来ます。

図-1 「子どもが心配」チェックシート 領域の構成



“The Graded Care Profile (GCP) Scale ~ A qualitative scale for measure of care of children ~”
をもとに, 岡山県児童相談に係る基準等作成グループが作成(2008)

「子どもが心配」チェックシート(岡山版)パンフレット版作成ワーキンググループが改訂(2010)

※1[参考文献]“The Graded Care Profile (GCP) Scale ~ A qualitative scale for measure of care of children ~”(Dr.Om Prakash Srivastava, Richard Fountain, Patrick Ayre and Janice Stewart)

Ⅱ 『「子どもが心配」チェックシート(岡山版)』の考え方

チェックシートを使用するうえで基本となる考え方は表-1のとおりです。この考え方は、GCPを参考に開発をしたものです。チェックシートを使用する場合には、あらかじめこの考え方を理解しておく必要があります。

チェックシートが大切にしている考え方である“子どもを中心にした子育て”とは、「子どものニーズをしっかりと満たしていること」「子どものことを最優先に考え、それを実践していること」「子どもの育ちに必要なものや関わりの質も考慮していること」の3つです。

それともう一つ大切にしている考え方があります。それは、“子どもは自ら育つ存在である”という点です。

つまり、“子どもを中心とした子育て”を、親が一方的にするのではなく、子どもと対話しながら実践することで“子どもは自ら育つ”ということです。チェックシートには、そのような考え方も盛り込んでいます。

表-1 基本となる考え方

段階	A	B	C	D	E
親の養育の水準	子どものニーズは何もかも満たされている。	必要不可欠なニーズは満たされている。	必要不可欠だが満たされていないニーズがある。	必要不可欠なニーズのほとんどが満たされていない。	必要不可欠なニーズが全く満たされていない。
親の子どもとの向き合い方	子どもが最優先。	子どもが優先。	子どもは親と同等。	子どもが後。	子どものことは考えていない。
親の養育の質	最も良い。	適切。	はっきりしない。	不十分。	最も悪い。

“The Graded Care Profile (GCP) Scale ~ A qualitative scale for measure of care of children ~”をもとに、岡山県基準等作成ワーキング・グループが翻訳/作成(2008)
 「子どもが心配」チェックシート(岡山版)パンフレット版作成ワーキンググループが改訂(2010)

Ⅲ チェックするカテゴリー、項目及び細事項

チェックするカテゴリー、項目及び細事項は表-2のとおりです。

表-2 チェックするカテゴリー、項目及び細事項

カテゴリー	項目	細事項
1 基本的な生活	ア 食 事	① 栄養バランスや食材に気を配っていますか ② 食事の量はどうか ③ 育ちに応じた食事をつくっていますか ④ 食育を実践していますか
	イ 住 まい	① 安全に配慮していますか ② 育ちや希望にそった部屋になっていますか また、掃除は行き届いていますか ③ 快適に暮らすための設備がそろっていますか
	ウ 衣 服	① 暑さ寒さに応じた服を着ていますか ② 毎日、体に合ったサイズの服を着ていますか ③ 身なりを整えていますか
	エ 清 潔	○ 清潔さを保つ習慣が身につくようにしていますか
	オ 健 康	① 健康に不安があるときは、病院を受診していますか ② 必要な治療を受けていますか ③ 子どもの健康に関する情報に関心をよせていますか また、必要な予防接種や健診を受けていますか ④ 専門家のアドバイスを活用していますか
2 安全・安心	ア 親と一緒にいるとき	① 危険に気づいていますか ② ①の危険への対策をしていますか ③ 外出したとき、安全に気をつけていますか ④ 家の中は子どもにとって安全な場所になっていますか
	イ 親が不在のとき	○ 安全への対策をしていますか
3 愛情	ア 親	① 子どもの気持ちを察していますか ② 子どもの気持ちによりそっていますか ③ 子どもとのやりとりはどうか
	イ 親と子どもの関係	① 意見交流をしていますか ② 関係の質はどうか
4 子どもの尊厳	ア おなじ目線から見た働きかけ	○ 自分らしさが育まれるよう必要な働きかけをしていますか
	イ みとめてほめる	○ 子どもの変化、成長、成果に気づき、それをみとめ、ことばにして伝えていますか
	ウ みとめられないことをしたとき	○ わかりやすく伝えていきますか
	エ 子どものプライドが傷ついたとき	○ しっかりと受け止め、支えていますか

“The Graded Care Profile (GCP) Scale ~ A qualitative scale for measure of care of children ~”
をもとに、「子どもが心配」チェックシート(岡山版)パンフレット版作成ワーキンググループが作成(2010)

IV 「支援を必要としている子ども」という考え

1 親の養育力が心配なカテゴリーへの支援

チェックシートで親の養育力を5段階に分けることにより、親が子どもに対してうまくできている部分と、心配な部分のカテゴリー別に明確になりますが、このうちDやE段階にある心配なカテゴリーについては、専門機関が何らかの支援を行う必要があります。

そして、全体を通して心配なカテゴリーが多くなるにつれて、必要となる支援の量（要支援レベル）は大きくなり、より多くの子どもの支援者（子どもの支援機関）が協働する必要性が生じてきます。

つまり、“子どもの最善の利益”を確保するために、地域で親子に関わっている様々な子どもの支援者（子どもの支援機関）が連携し、親の養育力が心配なカテゴリーをサポートするよう、それぞれの役割を決めて支援につなげていくこととなるのです。

2 要支援モデルと、必要となる支援の目安

要支援モデルのイメージは、図-2のとおりです。そして、要支援レベルの各段階で必要となる支援の目安は表-3に示しています。

支援をスムーズに行うためには、地域で親子に関わっている様々な子どもの支援者（子どもの支援機関）が話し合う場（ケース検討会議）において気をつけておくべきいくつかのポイントがあります。それは次のとおりです。

- 支援者がお互いに「子どもが心配」という想いと、具体的にどのカテゴリーが心配なのかを共有しましょう（チェックシートの考え方を共有して、実際に使って話し合しましょう）。
- 当面の支援目標をあまり高くないところに置いて共有しましょう。
- それぞれが実践する支援を具体的に設定しましょう。
- 手順や情報を集約する担当者（機関）と連絡方法を決めておきましょう。
- 会議の終わりには、決まったことと決まらなかったことの双方を確認しましょう。
- 次回の話し合いの日程を決めておきましょう。

図-2 「子どもが心配」要支援モデル

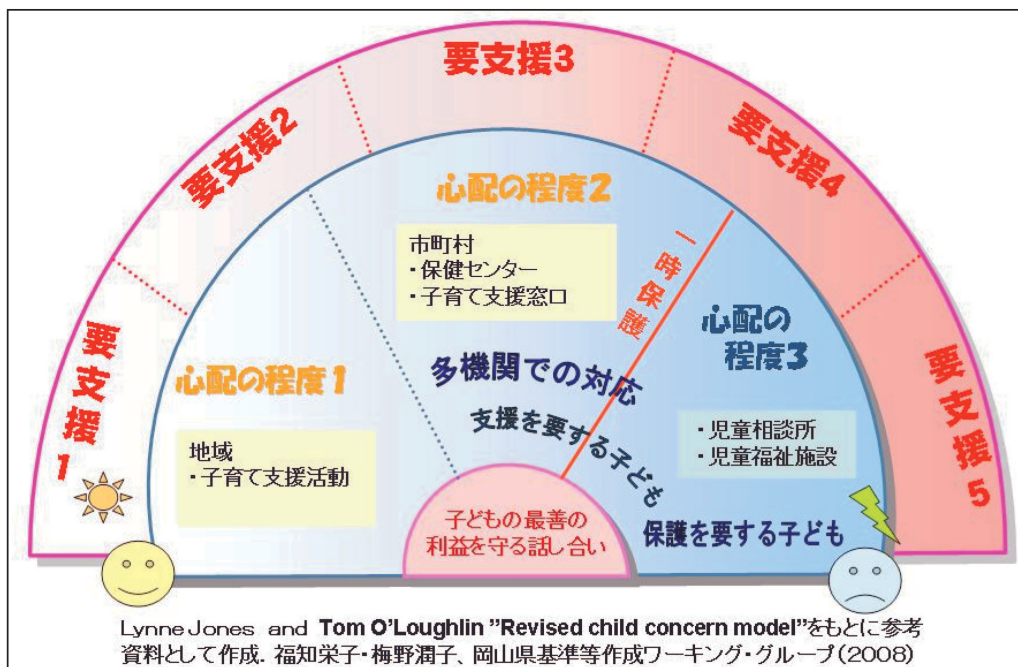


表-3 要支援レベルと、必要となる支援の目安

心配の 程度3	要支援5	緊急介入により、職権一時保護等の法的対応が必要
	要支援4	当面、在宅で支援を行うが、親子分離や法的介入を視野に入れた支援が必要
心配の 程度2	要支援3	在宅での支援を基調としながら一時的な施設利用等を考慮した支援が必要
	要支援2	在宅で地域ネットワークによる経過観察と育児支援等が必要
心配の 程度1	要支援1	虐待の判断は難しいが、今後移行するおそれがあり、育児支援や地域の子育て支援活動等が必要

岡山県児童相談に係る基準等作成グループが作成(2008)

「子どもが心配」チェックシート（岡山版）

使 い 方

I 「子どもが心配」チェックシート（岡山版）とは

1 はじめに

『「子どもが心配」チェックシート（岡山版）』（以下「チェックシート」という。）は、イギリスで開発されたアセスメントツールである『The Graded Care Profile (GCP) Scale』（以下「GCP」という。）を翻訳し、日本の風土や生活習慣に合うように開発したものです。

2 子どもを中心としたアセスメント

チェックシートは、GCPと同様、人間の自己実現のために満たされる必要がある「カテゴリー」を、一定の基準に照らして分けることで、子どもに関わる様々な支援者や専門機関の人々が、親中心ではなく、子どもを中心としてアセスメントできるように考案されています。

3 「カテゴリー」とは

「カテゴリー」とは、「基本的生活」「安全・安心」「愛情」「子どもの尊厳」の4つであり、それらが「項目」に分けられ、さらに「細事項」へと分かれています。

例えば、「愛情」のカテゴリーでは、親が子どもと接するときの姿勢を2つの項目と、5つの細事項に分けてアセスメントをするようになっています。

その1つである「子どもの気持ちを察していますか」という項目の細事項では、「ことばや態度ではっきりと表す前に察しています。子どもが表す、ほんのわずかなサイン（ことば、態度）であっても、しっかりと受け止めています。」から、「泣いたり、怒ったりしても何も感じません。イライラしてしまうことがあります。インパクトのあるサインでさえ何も感じないか、嫌悪することがあります。」まで5つの段階があり、親と一緒にアセスメントを行う支援者や専門機関の人々が実際の状況を確認し、子どもの意見を聴き取るなどして、それを5段階で評価をするようになっています。

その他の「カテゴリー」についても同じように記述があり、支援者や専門機関の人々が実際の状況を確認したことを評価できるようになっています。

4 信頼性と妥当性について

GCPは、イギリスの2つの自治体で、支援者や専門機関の人々が、子どもと親やその家族と協働しながら試行されています。その結果、GCPは、子どもと親やその家族と、支援者や専門機関の人々の協働を促進することがわかりました。

また、支援者や専門機関の人々にとっても使いやすいツールであるということもわかっています。そして、GCPによって明らかにされる結果は、自由記述をする他のツールよりも客観的であると結論づけられています。

チェックシートの質問項目は、GCPの質問項目を最大限活かし、風土や生活習慣にそぐわないものは、その主旨が反映されるように、児童相談所の職員、子ども福祉の政策担当者や有識者により議論を重ねたうえで、開発しています。

そのため、妥当性については、ある程度確認されていると思いますが、今後は、基礎的調査を実施したうえで、信頼性、妥当性について、改めて確認していきたいと考えています。

5 「強さ」と「困難」

チェックシートは、なかなか目には見えにくい親の養育力を、心配なところ（困難）だけではなく、できているところ（強さ）に焦点を置いて評価するアセスメントです。

支援を行うためには、心配なところ（困難）とできているところ（強さ）の双方を評価することが大切です。なぜなら、私たちが目指すのは、子どもの親とその家族が自分の力で、子どもの育ちのニーズをしっかりと満たしていくことができるようになるための支援です。

心配なところ（困難）とできているところ（強さ）の双方を評価することは、具体的な支援を組み立てるときに欠かせません。そういう意味においてもこのチェックシートは、活用しやすい実用的なツールです。

他のアセスメントと併せて、ぜひ、活用してください。

II チェックシートの記入方法について

1 チェックシートの構成

チェックシートを記入するためには、『記入上の着眼点』(P. 49~P. 64), 『「子どもが心配」チェックシート』(P. 65), 『児童票』(P. 66)の3つを使います。

まず、『記入上の着眼点』の表にある文を読み、あてはまる場所に○をつけます。そのときは、『項目別チェックポイント』(P. 39~P. 48)を参考にしましょう。次に『「子どもが心配」チェックシート』へ、その結果を記入します。そして最後に、『児童票』に、それらの結果を記入してまとめます。

2 記入の手順

図-3 記入上の着眼点への記入例

A 基本的生活		A	B	C	D	E
食 事	① 栄養バランスや食材に気を配っていますか。	子どもの食事に 関する知識があり、食 材の安全性や、栄養 バランスにも気を配 っています。	子どもの食事に 関する知識があり、安 くてもよい食材を 選び、栄養バランス にも気を配っています。	安くてもよい食 材を選び、栄養バ ランスに気を配るとき と、そうでないときが あります。	あまり気を配って いません。質や栄養バ ランスがとれていない 食事が多いです。	まったく気を配って いません。 尋ねられたら、「気 を配っている」など 嘘をつく場合もあり ます。
	② 食事の量は どうですか	いつも十分 足りています。	足りています。	「足りない」と 言うことが多い です。	「足りない」と 言うことが多い です。	いつも「足りない」と 言います。
	③ 育ちに応じた食 事をつくっています か(子ども向けの味 付け、調理の工夫、 盛りつけなど)	いつもつく っています。	なるべくするよ うにしています。	ときどきつく っています。	つくって いません。 大人が中心です。	食事をつくること がほとんどあり ません。 子どもは、お菓子 やカップラーメン などを食べて います。
	④ 食育を実践 していますか(健康に よい食べ物を 選ぶ力、マナー よく食べる力、 自然環境や食料 問題について考 える力を 育てる)	しっかり考 え、実践 しています。 坐る場所、食 事の時間 も決まっ ており、 マナーに も配慮 して います。	実践して います。 食事の時 間は決ま っていますが、 ときど き坐る 場所は 変わ ります。	ときどき 実践して いま す。 坐る場 所、食 事の 時間 は不 規則 で すが、 大体決 まっ て いま す。	実践でき ていま せん。 坐る場 所、食 事の 時間 はま った く不 規則 で す。	関心があ りませ ん。 いつ、 何を 食 べ る の か も ま た く 決 ま っ て い ま せん。

図-3

① 『記入上の着眼点』に子どもの情報を照らしあわせて、適当と思われる欄に○をします。また、記入は鉛筆で行います。

○をした内容は両隣の欄の内容と比較して、適当かどうか再確認します。



図-4「子どもが心配」チェックシート記入例

1 基本的生活		③ B	2 安全・安心		
ア 食事			ア 親と一緒にいるとき		<input type="checkbox"/>
① 栄養バランスや食材に気を配っていますか		② B	① 危険に気づいていますか		<input type="checkbox"/>
② 食事の量は どうですか		A	② ①の危険への対策を していますか		<input type="checkbox"/>
③ 育ちに応じた食 事をつくって いますか		B	③ 外出したとき、 安全に気を つけて いますか		<input type="checkbox"/>
④ 食育を実践 していますか		B	④ 家の中は子 どもにと って安全 な場所 になって いますか		<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>
イ 住まい			イ 親が不在のとき		<input type="checkbox"/>
① 安全に配慮 していますか			○ 安全への 対策を して いま すか		<input type="checkbox"/>
② 育ちや希 望にそ った 部屋 にな って いま すか					<input type="checkbox"/>
また、掃 除は 行 き 届 い て いま すか			3 愛情		<input type="checkbox"/>
③ 快適に暮 らすた めの 設 備 が そ ろ っ て いま すか			ア 親		
			① 子どもの 気持 ちを 察 し て いま すか		<input type="checkbox"/>
			② 子どもの 気持 ち に よ り そ っ て いま すか		<input type="checkbox"/>

図-4

② ①で○をした欄の細事項評価をシートに記入します。

③ ②で記入した細事項評価から項目の評価を出し、右上の□に記入します。

細事項評価から項目の評価を出す方法は、P. 37を参照してください。



図-5 「子どもが心配」チェックシート児童票記入例

「子どもが心配」チェックシート 児童票 ④

児童名 岡山 太郎 ケース番号 5 ハ 40
 生年月日 平成17年9月8日 記入年月日 平成22年11月8日
 親の氏名 岡山 花子 記録者氏名 山口

カテゴリー	項目	評 価	カテゴリー評価	備 考
1 基本的な生活	ア 食 事	A (B) C D E	⑥	⑦
	イ 住 ま い	A B (C) D E		
	ウ 衣 服	A (B) C D E		
	エ 清 潔	A (B) C D E		
	オ 健 康	A B (C) D E		
2 安全・安心	ア 親と一緒にいるとき	A B C (D) E	D	
	イ 子どもだけのとき	A B (C) D E		
3 愛情	ア 親	A B (C) D E	D	
	イ 親と子どもの関係	A B C (D) E		
4 子どもの尊厳	ア おなじ目線から見た働きかけ	A B (C) D E	E	
	イ みとめてほめる	A B C (D) E		
	ウ みとめられないことをしたとき	A B (C) D E		
	エ 子どものプライドが傷ついたとき	A B C (D) E		

○当面の支援の目安を設定する項目
 ・「目安を設定する項目」には、カテゴリー／項目／細事項の順に記載すること。
 (例：3/イ/①=愛情/親と子どもの関係/意見交流をしていますか)
 ・不釣り合いに低い評価のある項目は、「使い方」を参照して確認すること。 ⑧

目安を設定する細事項	現在の評価	目安とする評価	期 間	備 考
1. 3 / イ / ①	D	C	1か月	
2. / / /				
3. / / /				
4. / / /				
5. / / /				

“The Graded Care Profile (GCP) Scale ~ A qualitative scale for measure of care of children ~” をもとに、岡山県基準等作成ワーキング・グループが作成(2008)

図-5

④ 児童名，生年月日，親の氏名などを記入します。必要であれば，両親それぞれにシートを作成します。

⑤ 児童票の評価欄に③でシートに記入したすべての評価を○で囲みます。

⑥ カテゴリー評価を記入します。(※評価の方法についてはP.37を参照)そうすることによって，子どものニーズが各々のカテゴリーでどのように満たされているのか全体像が把握できます。

⑦ 備考欄を記入します。ここでは，チェックシートでチェックしきれない気になる点，支援につながる内容を記入します(例えば，「親の疾病」や「医

学的な診断の必要性」，「子どもの障害」など)。

備考欄に記入しておくことで，専門家(弁護士や医師など)の協力を得るヒントとなります。

⑧ 支援の目安を記入します。当面の支援の目安は，例えばカテゴリーの中で低い評価のところをDからC，CからBへ評価を1段ずつ上げていくことを目標とします。そうすることで実現可能な目標となり，親にとっても実現しやすいものとなります。

3 評価を出す方法

「子どもが心配」チェックシートを開発する目的は、子どもの満たされていないニーズを明確にして、“子どもの最善の利益”を確保することにあります。

そのため、評価にあたっては平均をえません。平均を用いると低い評価の意味が明確にならないからです。

図-6 細事項の評価がいずれも「B」以上の場合

1 基本的生活	①
ア 食事	B
① 栄養バランスや食材に気を配っていますか	B
② 食事の量はどうか	A
③ 育ちに応じた食事をつくっていますか	B
④ 食育を実践していますか	B

図-6

① 細事項の評価が、いずれも「B」以上の場合には、「B」と「A」の多い方を記入します。

図-7 細事項の評価が「B」と「A」同数の場合

1 基本的生活	②
ア 食事	B
① 栄養バランスや食材に気を配っていますか	B
② 食事の量はどうか	B
③ 育ちに応じた食事をつくっていますか	A
④ 食育を実践していますか	A

図-7

② 細事項の評価が「B」と「A」同数の場合には、「B」と記入します。

図-8 細事項の評価に一つでも「C」以下の評価がある場合

1 基本的生活	③
ア 食事	D
① 栄養バランスや食材に気を配っていますか	B
② 食事の量はどうか	B
③ 育ちに応じた食事をつくっていますか	C
④ 食育を実践していますか	D

図-8

③ 細事項の評価の一つでも「C」以下の評価がある場合には、たとえ「B」や「A」があったとしても、最も低い評価を記入します。

4 記入にあたっての注意事項

- ① 適切な評価をするためには、家庭訪問を行うなど、日常生活をよく観察し、事実確認を行ったうえで記入します。例外的な状態をもって記入しません（例えば「前夜眠っていない」など）。
家庭訪問をする際には、「チェックシート記入上の着眼点」を持参することが望ましいです。もし、可能であれば親と一緒に確認し評価していきます。
- ② 親が自ら行ったことのみを記入します。
常に誰かの手助けを受けて成り立っていること、親以外の誰かにしてもらって改善がなされたものなどについては記入しません。
- ③ 親に何らかの事情があった場合は、機会を改めて訪問を行い記入する必要があります（※「親の事情」とは、例えば、「親自身が親族と死別したとき」や「失業の直後」、「（親自身の）両親の病気」などをいいます）。
- ④ 親がこちらに対して意図的に間違った情報や印象を与えるようであれば、「E」と記入します。

Ⅲ 項目別チェックポイント

1 基本的な生活

ア 食 事

- ① 栄養バランスや食材に気を配っていますか
- ② 食事の量はどうか
- ③ 育ちに応じた食事をつくっていますか
- ④ 食育を実践していますか

- 栄養バランスのとれた質の良い食材を調理し、献立を考え、決まった時間に準備しているでしょうか。献立、食事時間、調理時間など数日分（2～3日）の食事についてチェックをしましょう。
子どもに、毎日の食事の内容やどう思っているのかなどのお話や意見を聴いて事実を確認することが大切です。
- 子どもの育ちに適した食事の量や、栄養バランスについて知っていますか。もし、知らない場合はその情報を親に提供して話し合みましょう。
また、情報を提供したときの親の反応はどうでしょうか。熱心に聞いていましたか。それとも拒否的だったでしょうか。記録しておきましょう。
- 台所用品や調理器具はそろっていますか。食卓は、子どもが落ち着いて食事ができるように整えられていますか。食卓や台所の様子なども確認しましょう。
- 実際に、親が子どもにどのような内容の食事をどのくらいの量提供しているのか確認してから評価をします。「子どもが少食だから」とか「食べないから」、「偏食があるから」といった事情（親から聞いた理由）は評価の際には考慮しませんが、欄外に記録して支援の参考にしましょう。
食事については、その時間帯に訪問して確認することが望ましいです。
- 親から聞き取りをするときには、誘導的な質問をしないようにします。
可能なかぎり、ありのままの事実を確認して評価しましょう。

イ 住 ま い

- ① 安全に配慮していますか
- ② 育ちや希望にそった部屋になっていますか
また、掃除は行き届いていますか
- ③ 快適に暮らすための設備がそろっていますか

○ 子どもの目線から、住まいに問題がないかを確認します。修理などの努力がなされていたら、親が自身でそれをしたかどうかを確認します。

もし、修理などを福祉機関や家主がしている場合は、親が自ら努力したことにはならないので、評価にあたって考慮しません。

ウ 衣 服

- ① 暑さ寒さに応じた服を着ていますか
- ② 毎日、体にあったサイズの服を着ていますか
- ③ 身なりを整えていますか

○ 子どもの衣服は、品質や素材に配慮したものを選んでいるでしょうか。
また、洗濯やアイロンがけなどをして快適さを保つようになっているでしょうか。

○ 子どもが（年齢に応じて）衣服の快適さを保つための方法を身につけることができるようになっているでしょうか。

エ 清 潔

清潔さを保つための（子どもの年齢に応じた）習慣が身につくようにしていますか

- 清潔さが保たれ、その習慣が身につくようにしているでしょうか。例えば、髪を整える、肌を清潔にする、爪を切る、虫歯の治療をするなどはどうでしょうか。
- 子どもの衛生面を清潔に保つために、どのような取り組みや工夫をしているのか親に尋ねてみましょう。

オ 健 康

- ① 健康に不安があるときは、病院を受診していますか
- ② 必要な治療を受けていますか
- ③ 子どもの健康に関する情報に関心をよせていますか
また、必要な予防接種や健診を受けていますか
- ④ 専門家のアドバイスを活用していますか

(※この質問は、子どもが療育などを受けているか、現在、病気で病院にかかっている場合にチェックしてください。)

- 年齢の小さな子どもがいる場合、予防接種や健診を受けているでしょうか。もし、受けていない場合は理由を聞いて適切な内容か確認しましょう。
- 子どもの健康について専門家（医師や保健師など）に相談をしているか確認しましょう。また、かかりつけ医がいるかについても確認しましょう。
- 親が持っている子どものケガや病気に関する知識で、誤解している点などはないか（親の思い込みなど）、専門家に確認してみましょう。
- 子どもに障害や慢性疾患があっても、親に対して過度な共感（同情）をせず、子どもへの関わりについて客観的に事実を確認して評価しましょう。

2 安全・安心

ア 親と一緒にいるとき

- ① 危険に気づいていますか
- ② ①の危険への対策をしていますか
- ③ 外出したとき、安全に気をつけていますか
- ④ 家の中は子どもにとって安全な場所になっていますか

- このカテゴリーでは、普段、子どもが暮らしている環境が、どのくらい安全であるかをみます。
- 設備の安全性と、日々の暮らしにおける親の行動を評価します。
- 子どもの年齢に応じたチェック項目に記入しましょう。
- 家の中は、子どもにとって安全な場所になっているのでしょうか。例えば、赤ちゃんの場合は、口の中に入ると危険なもの（たばこ、ピン、小物など）を近くに置いたままにしない、少し大きくなった子どもの場合は、危険なもの（ハサミ、医薬品、化粧品など）は、子どもの手の届かないところに置いておくといった配慮をしていますか。
- 家の内外や車内の設備は、子どもにとって安全な場所になるよう整えられているのでしょうか。例えば、年齢が小さい子どもの場合、ベビーゲートやコーナーガード、チャイルドシートなど必要な設備を整えており、適切に使えていますか。
- もし、子どもが危険にさらされているような場面に出会ったら、直感的に親がどのように反応するか観察しましょう。そのような場面に出会わない場合は、同様の状況でどうするか親に認識を尋ねてみましょう。
- 子どもが道路を横切ることや、戸外で一人で遊ぶことを親が許しているのかを確認するか、尋ねてみましょう。
- 親以外の家族や関係機関にも調査して確認をしましょう。

イ 親が不在のとき
安全への対策をしていますか

- 家の中に親がおらず，子どもだけで留守番をする場合，子どもが安全に安心して過ごすことができるように，留守にする理由や留守にする時間，もし困ったときにはどうすればよいかなどを説明したり，親に代わって世話をしてくれる人をお願いしておくなどの準備や配慮をしていますか。
- 親に代わって世話をしてくれる人に確認をしましょう（親が不在の理由，時間や期間はどのくらいか，世話をしてくれる人の年齢など）。
- 子どもだけで過ごす時間が長い場合は，安全確保のために一時保護を検討する必要がありますので，しっかりと確認をして，児童相談所へ相談しましょう。
- 親の話や訪問だけではなく，近隣や関係機関など家族の暮らしをよく知っている地域の人へも調査を行い確認しましょう。

3 愛 情

ア 親

- ① 子どもの気持ちを察していますか
- ② 子どもの気持ちによりそっていますか
- ③ 子どもとのやりとりはどうか

- 子どもが表すサイン（表情，ことば，態度，しぐさなど）を受け止め，子どもにわかるように声をかけたり，関わりを持っていますか。
- 親が子どもに声をかける，関わりを持つなどのタイミングはどうでしょうか。
- 子どもとのやりとりの質はどうか。機械的なやりとりではなく，優しさや温かさが育まれるやりとりになっているでしょうか。

イ 親と子どもの関係

- ① 意見交流をしていますか
- ② 関係の質はどうですか

- 食事や遊びなど、親子で行う活動場面で子どもとどのような関係を持っているでしょうか。例えば、子どもとしっかりやりとりをしながら関係を持っていますか。また、子どもが色々な意見を言ったり、提案をしたときには、しっかりと聴き、それを受け止めようとしていますか。
- 赤ちゃんの場合は、親へ積極的に甘えて安心感を求めたり、遊んでほしいときに探したりしますか。また、ミルクがほしいときに親へ手を伸ばしたり、お互いに微笑みあったりしていますか。
- 赤ちゃんが授乳中にふれあいを求めて手を伸ばしたり、飲むのを中断して親と目をあわせて微笑みかけるなど、親と子どもが会話し、ふれあい、安心感やたわむれを求めるようなとき、どのような様子なのか確認しましょう。
- 子どもに気質上（気性が激しい、マイペース過ぎる、集中力がないなど）または行動上（盗み、乱暴、自傷など）の問題が見られている場合は、すぐに障害と決めつけることなく、今後の支援のために、いつ、どこで、誰と、どのような場面で、どの程度その問題が見られているのか具体的な内容を記録しておきましょう。
- 家庭訪問などを行っているときに、親子のやりとりが自然になされている場面に出会えたら、この項目を思い出してしっかり観察してみましょう。
- 親子ともにやりとりを楽しんでいるのか、または、どちらか一方だけなのか、あるいは、どちらも楽しんでいないのかを注意して観察しましょう。
- 親から子どもに対する働きかけが義務的であったり（例えば、授乳を義務的に行っているなど）、また、親が暇を持て余して子どもをからかったり、あざ笑うなどの様子が見られていたら、支援が必要な状態です。見落とさないように注意してください。

4 子どもの尊厳

ア おなじ目線から見た働きかけ

自分らしさが育まれるよう必要な働きかけをしていますか

- 例えば、子どもが2歳ぐらいまでであれば、一緒に絵本を読む、遊ぶ、家事など一緒に生活体験をするなどの活動を通じて、子どもの育ちを促すようにしているでしょうか。
また、子どもの自己主張が強くなり、気持ちややる気も強くなるこの時期に、大きな声や手をあげることなく、子どもとおなじ目線から見て共感できそうなものを探しながら、どう対処したらよいのか、考える時間を子どもにあげながら、自分らしさが育まれるようにしていますか。
- 「家事や仕事などに追われて時間がない」「周囲からの応援がもっとほしい」など、どうしても難しい事情があって、子どもへの働きかけが十分にできないというニーズを持つ親の場合は、そのことを記録しておきましょう。
- 子どもの年齢に応じた項目をチェックしましょう。
- 学齢期（小・中学生）の質問は4つの要素に分かれていますが、それぞれの要素は相互に関係しあっています。そのため、すべてが確認できなくても1つの要素で判断して、評価をすることもできます。

イ みとめてほめる

子どもの変化，成長，成果に気づき，それをみとめ，ことばにして伝えて
いますか

- 子どもが目的を達成したときや，一生懸命やったとき，親はそれをどの
ようにみとめてほめていますか。また，それをみとめず，無視したりして
いないでしょうか。
- 子どもが目的を達成したときや，一生懸命やったときに，親は子どもへ
どのようにことばをかけているでしょうか。親の様子を確認してみましょ
う（例えば，子どもに「すごいね。どんなふうにしてやったの？」と問い
かけるのか，単に「よかったね」とだけほめているのでしょうか。または，
無反応なのでしょうか）。

ウ みとめられないことをしたとき

わかりやすく伝えていますか

- 子どもがみとめられないことをしたとき，一方的に責める，感情的に叱
るなどしていないでしょうか。
- もし可能ならば，子どもが叱られている場面を観察してみましょう。そ
れが難しければ，具体的な場面を想定するなどして親に尋ねてみましょう。
例えば「お子さんはかんしゃくを起こすことがありますか。もし，お母さ
んお父さんが疲れているときに，お子さんがかんしゃくを起こしたらどう
しますか。」などと尋ねてみましょう。
- 無視する，あざ笑うなど自尊心が傷つくような伝え方をしていませんか。
このような伝え方をしている場合は，早急に支援が必要です。
- 親の説明と実際とが違ってないかを注意深く観察しましょう。

エ 子どものプライドが傷ついたとき
しっかりと受け止め、支えていますか

- 親が叱ったあとや、先生などから叱られたとき、または、成績が悪かったときなど、子どものプライドが傷つくようなことがあったときに、親はそれをどのように受け止めているのでしょうか。実際の様子を必ず確認しましょう。もしそれが難しい場合は、近隣や関係機関など家族の暮らしをよく知っている地域の人に確認してください。

そして、親が子どもを拒否する、けなすなどしているのか、それともその子どもの良さを失わないように温かく、肯定的に受け止めているのか、そのどちらなのかを確認しましょう。

IV 「子どもが心配」チェックシート 記入上の着眼点

1 基本的な生活

項目	細事項	A	B	C	D	E
ア 食 事	① 栄養バランスや食材に気を配っていますか	子どもの食事に関する知識があり、食材の安全性や、栄養バランスにも気を配っています。	子どもの食事に関する知識があり、安くて質のよい食材を選び、栄養バランスにも気を配っています。	安くても質のよい食材を選び、栄養バランスに気を配れるときと、そうでないときがあります。	あまり気を配っていません。質が悪く、栄養バランスがとれていない食事になっています。プレッシャーを感じることであれば一時的には気を配りませんが続けられません。	まったく気を配っていません。尋ねられたら、「気を配っている」などと嘘をつく場合もあります。
	② 食事の量はどのくらいですか	いつも十分足りています。	足りています。	「足りない」と言うことがあります。	「足りない」と言うことが多いです。	いつも「足りない」と言います。
	③ 育ちに応じた食事をつくっていますか(子ども向けの味つけ、調理の工夫、盛りつけなど)	いつもつくっています。	なるべくつくるようにしています。	ときどきつくっています。	つくっていません。大人が中心です。	つくることがほとんどありません。子どもは、お菓子やカップラーメンなどを食べています。
	④ 食育を実践していますか(健康によい食べ物を選ぶ力、自manaより食べる力、自然環境や食料問題について考える力を育む)	しっかり考え、実践しています。座る場所、食事の間も決まっておお、mana一にも配慮しています。	実践しています。食事の時間は決まっていますが、ときどき座る場所が変わります。	ときどき実践しています。座る場所、食事の間は不規則ですが、だいたい決まっています。	実践できていません。座る場所、食事の間はまったく不規則です。	関心がありません。いつ、何を食べるのかもまったく決まっていません。

項目	細事項	A	B	C	D	E
イ 住 ま い	① 安全に配慮していますか	十分配慮しています。	配慮しています。	なるべく配慮しています。	危ないところはありませんが、やろうと思えば修理など自分で改善することができます。	危ないところがあり、自分で改善しましたが、これ以上は、どうすることもできません。
	② 育ちや希望にそった部屋になっていますか。また、掃除は行き届いていますか	なっています。 掃除も大丈夫です。	十分ではありませんが、工夫しています。 掃除は大丈夫です。	なっています。 掃除はするようにしています。	なっています。 掃除も十分できています。	なっています。 掃除をすることが難しいです。
	③ 快適に暮らすための設備がそろっていますか(風品、エアコン、寝具、学習机、静かに学習に取り組むことができる部屋など)	すべてそろっています。	だいたいそろっています。 子どものために、そろえることができるよう、最大限努力しようとしています。	必要だと思っていますが、十分にそろえることができません。 子どものために、そろえる努力まではしません。	いくらかはそろっていますが、必ず必要なものがないことはありません。そろえるときは、子どもより親の都合を優先させてしまいます。	必要なものをそろえることが難しいです。 そろっていないことで子どもの健康状態や学習に影響が出ています。
<p>注: 「安全に配慮していますか」⇒修理などが福祉機関や家主によってなされている場合は考慮しません。しかし、親が貸付金(ローン)または補助金を使うなど、住居の改善のために自分自身で努力をした場合は考慮しましょう。</p>						

項目	細事項	A	B	C	D	E
ウ 衣 服	① 暑さ寒さに応じた服を着ていますか	着ています。 品質や着心地のよいものを選んでいきます。	着ています。 品質や着心地にも気を配っています。	着ています。	着ていないことがあります。	着ていません。 子どもの健康に影響を及ぼす可能性があります。
	② 毎日、体に合ったサイズの服を着ていますか	着ています。 デザインもあわせていきます。	着ています。 きょうだいのおさがりですが、体に合っています。	だいたいあったものを着ています。	あつてないものを着ていることが多いです。	あつたものを着ていません。
	③ 身なりを整えていますか	必ず整えています。	だいたい整えています。	すりきれた服を着せることがありますが、洗濯はするようにしています。	すりきれている、しわくちゃになっている、多少汚れているなどの服を着せることが多いです。	ひどくすりきれている、しわくちゃになっている、汚れている、臭うなどの服を着せることが多いです。
	③ 身なりを整えていますか	必ず整えています。	だいたい整えています。	すりきれた服を着ていることが多いですが、洗濯はできています。 就学前であれば、比較的状态のよい服を着させているようにしています。	子どもが自立していない、すりきれた服を着ている、多少汚れているなどの服を着せることが多いです。	ひどくすりきれている、しわくちゃになっている、臭うなどの服を着せることが多いです。 子どもが自立するべきではありません。

注: きちんと洗濯やアイロンがけをした服を着ていますか。また、子どもが衣服の快適さを保つ方法を身につけられるようにしていますか。身なりを整えることは、「自分らしさ」(子どもの尊厳)を育むことにつながります。

項目	細事項	A	B	C	D	E
工 清 潔	○清潔さを保つ習慣が身につくようになっていますか	毎日決まった時間にお風呂に入ります。身なりも整えています。	毎日決まった時間にお風呂に入ります。	毎日お風呂に入りま す。日によって時間が 変わることがあります。 1歳を過ぎている場 合、毎日はいりません。	ときどき、お風呂に入り ます。 身なりは、たまにしか 整えていません。	たまにしか、お風呂 に入れません。 体が汚れています。
		細やかに気がつき、い つも見守り、必要なら習 慣が身につくよう手伝 っています。	細やかに気がつき、子 どもが自分でしようとす ることを見守り、必要な ら手伝います。	気がつけば、手伝っ ています。 見守ることまではでき ません。	気がついても、なかな か手伝えていません。	見守ったり、手伝った りはしません。 特に気にしていま せん。
		細やかに気がつき、い つも見守り、必要なら習 慣が身につくよう手伝 っています。	細やかに気がつき、子 どもが自分でしようとす ることを見守り、少し間 違っていても見守って います。	たまに気を配ってい ます。	子ども任せにしていま す。	特に気にしていま せん。

項目	細事項	A	B	C	D	E
才 健 康	① 健康に不安があるときは、病院を受診していますか	しています。 予防も心がけています。	しています。	子どもに何らかの症状が見られれば受診しています。	病状が悪くなれば受診します。	症状が悪くなり、緊急を要すれば受診します。
	② 必要な治療を受けていますか	医師との約束を守り、必ず受けています。都合がつかなくなっても何とかします。	治療の必要性に疑問を感じたり、どうしても治療を受けられない事情がないかぎり、必ず受けています。	子どもにとって明らかに必要な治療でも、どうしても親の都合で受けられないことがあります。	子どもに治療を受けさせるように3回すすめられたら受けます。子どもにとって明らかに必要な治療でも、その効果を疑ってしまうことがあります。	子どもに治療を受けさせるように3回すすめられても受けていません。
	③ 子どもの健康に関する情報に関心をよせていますか。また、必要な予防接種や健診を受けていますか	よせています。予防接種なども必ず受けています。	特別な理由がないかぎり、関心をよせています。予防接種なども受けています。	親の都合で十分に関心をよせられません。予防接種などを受けないことがあります。すすめられたら受けます。	積極的には関心をよせていません。予防接種なども受けていません。保健師さんが来れば話をします。	関心がありません。予防接種なども受けていません。保健師さんが来ても話をしません。
	④ 専門家のアドバイスを活用していますか	しつかり、活用しています(意見が食い違う場合は、そのかぎりではないことがあります)。	特別な理由がないかぎり活用しています。	特別な理由はありませんが、ときどき、活用しています。	特別な理由はありませんが、あまり活用していません。大したことではないと思っています。	活用していません(理由はなく、必要な医療などを受けていません)。子どもの障害などについて嘘をつく、不自然な悪化、または、障害などそのものが嘘の場合があります。
注: ④は、子どもが障害や慢性疾患(診断を受けてから3ヶ月後)を持っている場合、もしくは病気の場合どのようにしているのか回答してください。						

2 安全・安心

項目	細事項	A	B	C	D	E
ア 親が一緒のとき	① 危険に気づいていますか	どこにいても、どのようなことが危険なのか気づいています。	どのようなことが危険なのか気づいています。	登園・通学や家の周りのことなら気づいています。	あまり、知りません。	関心がありません。
	② ①の危険への対策をしていますか	<p>注：②を評価する際は、④とその例も参考にしてください。</p> <p>そばを離れることは、ほとんどありません。いつも、子どもを注意深くあつかい、寝かせたりしています。</p>	<p>そばを離れても、たびたび確認しています。子どもを注意深くあつかい、寝かせたりしています。</p>	<p>家の中であれば、そばを離れていても、あまり確認しません。子どものあつかいが頼りなく、不安なときがあります。</p>	<p>特に何もしていません。子どものそばにいないことが多いです。子どものあつかいが頼りなく、不安です(子どもがほ乳びんをぐわえているときでもそばにいないなど)。</p>	<p>特に気にしていません。子どもの身に危険が及ぶようなあつかいになっていきます(子どもが入浴しているときでもそばにいないなど)。</p>
	ひとりで移動できるようになった時期	子どもが動く範囲内であらゆる危険を予測してしつかりと対策をします。	事故が起こる危険性が高いものについては、しつかりと対策をしています。	事故が起こる危険性が高いものについては、何らかの対策をしています。効果がある対策なのかは確信が持てません。	<p>普段の対策は、あまり効果がありません。ケガをしたら一時的に対策を考えます。</p>	<p>不注意で子どもを危険にさらすことがあります(子どものそばに熱いアイロンを置いておくなど)。</p>

項目	細事項	A	B	C	D	E
ア 親と一緒にとき(続き)	② ①の危険への対策をしていますか(続き)	あらゆる危険を予測して、屋内外でしっかりと対策をしています。	屋内ではしています。安全とわかっている所から対策はしています。	屋内外であきらかな危険があれば、対策をします。	特に対策はしていません。ケガをしたら対策を考えます。	ちよつとしたケガなら放っておくか、子どもを叱ってしまいます。大きなケガなら、問題解決の役に立たない介入をします。
	幼稚園～小学校低学年	安全な場所で、門限までなら外出を許可しますが、必ず確認もしています。	安全そうなら、よく知らない場所でも外出を許可しています。心配なら確認もします。	外出先を知らないこともありませんが、時間とおりに帰宅すれば安全と思っているので気にしません。	外出先を知らなくても気になりませんが、小学生なら帰宅が遅いと心配です。	屋外の危険な場所に出かけていたり、帰宅が遅くてもあまり気になりません。
	小学校高学年～中学校					

項目	細事項	A	B	C	D	E
ア 親と一緒にいるとき(続き)	③ 外出したとき、安全に気をつけていますか	必ず気をつけています。 3歳未満であれば、抱っこ、ベビーカーの利用、手をつないで歩くなどしています。	だいたい気をつけています。 3～4歳であれば、常に目の届く範囲では自由にさせています。 必要であれば、人混みなど心配な場所では手をつなぐなどしています。	危ないと感じれば気を付けています。 3～4歳であれば、大人が前を歩き、後ろからついてきているか確認をしながら自由に歩いています。ついてきていなければとどき振り返って確認しています。	あまり気にしていません。 3歳未満であれば安全とは言えない状態です。 3～4歳であれば、大人から遅れずと後ろをひとり歩き、大人がイライラして子どもを引きずって歩くことがあります。	まったく気にしていません。 ベビーカーは赤ちゃんに配慮されたものではなく、安全とはいえません。 3～4歳であれば、放任されており、親が見失い、発見されたときは子どもを感情的に叱っています。
	5歳以上	必ず気をつけています。 5～10歳であれば、交通量の多い危険な道や交差点を渡るとき、大人がつき添い、みんなが渡っています。	だいたい気をつけています。 5～8歳であれば、中学生以上の子どもと一緒に交通量の多い危険な道や交差点を渡ることを認めています。 また、8～9歳であれば信頼できるようであれば渡ることを認めています。	危ないと感じれば気を付けています。 5～7歳であれば、年上の子どもと一緒に、交通量の多い危険な道や交差点を渡ることを認めています。	あまり気にしていません。 5～7歳になれば、交通量の多い危険な道や交差点をひとり渡っても大丈夫だと思っています。	まったく気にしていません。 7歳以上であれば、交通量の多い危険な道や交差点をひとり渡っています。

項目	細事項	A	B	C	D	E
ア 親と一緒にいるとき (続き)	④ 家の中では子どもにとって安全な場所になっていきますか	なっています。思いつく対策はすべてとっています。 カメラ付ドアホン、コセンセントカバー、ベビーゲート、コーナーガード、転落防止対策、指つめ対策、ナンバードイスブレイ電話など。	なっています。必要な対策はできるだけとるようにしています。 ドアやガス、電気製品などの安全対策、子どもの手の届かないところに薬や洗剤などを置く、煙感知器の設置など。 (お金、時間) 余裕があれば応急的な対策か、自分で修理をしています。	だいたいなっています。必要な対策が十分できていない面があります。ほんのわずかな応急的な対策か、自分で修理をしています。	あまりなっています。修理していないものがあり、ケガなどを防ぐかまかせません(不安定に置かれていない家具、電気製品など)。	なっています。修理していないものや、明らかに危険なものがそのままになっています(割れたガラス、塩素系漂白剤や殺虫剤など)。
注: 自転車用ヘルメット, 車の安全座席(チャイルドシート), スポーツ用安全ウェアなども併せて, ②と④を評価する際の参考にしてください。						

項目	細事項	A	B	C	D	E
イ 親が不在のとき	○ 安全への対策をしていますか	必ずしています。 信頼できる大人に世話を頼んでいます。 中学生以下の子どもの世話を頼むことはありません。	だいたいしています。 1～12歳であれば、やむを得ない場合、かぎられた時間だけ、信頼できる中学生以上の人に世話を頼んでいます。 緊急の場合は、1歳以下の赤ちゃんも同様にしていきます。	危ないと感じればします。 0～9歳であれば、親が休養するために10～13歳の(頼むのに適していない)子どもに世話を頼むことがあります。	あまり気にしていません。 0～7歳であれば、親が休養するために8～10歳の(頼むのに適していない)子どもに世話を頼むことがあります。	まったく気にしていません。 0～7歳であれば、親が休養するためにひとりで留守番をさせることがあります。 もしくは、8歳以下の子どもの信頼できない大人に世話を頼むことがあります。

3 愛情

項目	細事項	A	B	C	D	E
ア 親	① 子どもの気持ちを察していますか	ことばや態度ではっきりと表す前に察しています。子どもが表すほんのわずかなサイン(ことば、態度)であつても、しっかりと受け止めています。	ことばや態度ではっきり表すとわかります。子どもが表すサインがはっきりしていれば、理解します。	泣いたり、怒ったりするとわかります。インパクトのあるサインを出すと理解します。	泣いたり、怒ったりしても気になります。インパクトのあるサインを繰り返して長く出すと理解します。	泣いたり、怒ったりしても何も感じません。イライラしてしまうことがあります。インパクトのあるサインでさえ何も感じないか、嫌悪することがあります。
	② 子どもの気持ちによりそっていますか	ことばや態度で表す前でも、よりそっています。	特別な理由がないかぎり、よりそっています。	時間に余裕があるか、子どもが辛そうにしていたらよりそいます。	子どもが辛さを訴えてきたらよりそいますが、タイムラグが遅れます。	子どもがケガをする、大きな事故にあうなどしたらよりそいます。
	③ 子どもとのやりとりはどうですか	子どもの気持ちが満たされるように、物心ともに十分できています。子どもが表すサインに対して誠実に応じています。そのため、子どもが表すストレスのサインは物心両面から解消できています。温かいやりとりです。	子どもの気持ちが満たされるようにしています。ストレスを物質的な面から解消することは十分できませんが、情緒的な面のやりとりは温かく、子どもが安心できています。	気持ちに余裕があれば子どもの気持ちがあれたいようにしています。気持ちに余裕があるときは、温かいやりとりができますが、そうでないときは素っ気ないやりとりになっています。	単調で機械的なやりとりになってしまいます。子どもがそれほど強くないストレスを感じている場合は、いらいら、深刻なストレスを感じている場合は、気をつかいます。	やりとりをすることが好きではありません。子どもがストレスを感じていると嫌がるか罰を与えるようなことをします。大きな事故が起こると、自分の責任を回避するために行動してしまいます。どんな温かいやりとりやそれを後悔する発言もあてになりません。

項目	細事項	A	B	C	D	E
イ 親と子どもの関係	① 意見交流をしていますか	積極的にしています。 親から意見を伝えることが多いです。	しています。 対立した場合でも、子どもの意見を尊重しています。	しています。 子どもから意見を伝えることが多いですが、態度が悪ければ尊重しません。	子どもから一方的に意見を伝え、親はめったに意見を伝えません。	子どもから意見を伝えてくることもありません。
	② 関係の質はどうですか	子どもが楽しめるような関係をいつも持っています。 親も楽しんでいます。	子どもも親も楽しめる関係を頻繁に持っています。	子どもの方から関わりを楽しんでいます。 子どもと親が楽しいと思えることが、あまりかみあいません。そのため、親は楽しんではいませんが、受け身です。	関わりを求められたら、仕方なく相手をするか、知らん顔することもあります。 子どもから親が楽しめるような働きかけをすることがあります(親におもちゃを見せて、膝に座らせてもらうとうとうとするなど)	関わりを求められると嫌な気持ちになります。 親は一緒に楽しむ約束をしますが、まったく実行しないため、子どもはあきらめて、ひとりで遊んでいます。
<p>注: 子どもに気質上の問題(気性が激しい, マイペース過ぎる, 集中力がないなど)または行動上の問題(盗み, 乱暴, 自傷など)があり, 調査の結果からも, 同様の問題が見られる場合, イの評価(特に②の評価)は, 実態を反映したものではありません。 そのため, イの項目の評価は行わず, アの“評価のみを行い, その結果を「3 愛情」のカテゴリー評価としてください。</p>						

4 子どもの尊厳

項目	細事項	A	B	C	D	E
ア おなじ目線から見た働きかけ	○自分らしさが育まれるよう、必要な働きかけをしていますか	<p>しっかりとできるように心がけています。 絵本やおもちゃなどもそろえています。</p>	<p>心がけています。 絵本やおもちゃは少ないですがそろえています。</p>	<p>十分ではありませんが、心がけています。 親の都合を優先しがちです。その間、子どもはひとりであることがあります。ときどきしか、子どもとしっかりと関わりあえていません。</p>	<p>あまり心がけていません。 子どもが求めてくれれば応じます。 親の都合を優先してしまいます。その間、子どもを放っておくことがあります。</p>	<p>特に心がけていません。 子どもが求めてきたら怒ってしまふことがあります。</p>
	2～4歳	<p>しっかりと持つように心がけています。 話をする、一緒に遊ぶ、物語を読み聞かせるなどとしており、やりとりの種類が豊富で、質の良いものを選んでいきます。</p>	<p>持つように心がけています。 やりとりは、十分しており、子どもが満足する質のものになっています。</p>	<p>十分ではありませんが持つように心がけています。 他に気になることがあると、やりとりの量や質が変わってしまいます。</p>	<p>時間に余裕があっても、あまりできません。</p>	<p>まったくありません。</p>
	おもちゃや道具	<p>安全で楽しみながら学べるおもちゃや道具を、しっかりと用意しています。</p>	<p>必要なのは用意します。 そのために家計をやりくりします。</p>	<p>必要なものは用意します。 家計のやりくりまではしません。</p>	<p>必要なものでも、全部用意できません。</p>	<p>もったりしないかぎり、まったく用意できません。</p>

項目	細事項	A	B	C	D	E
ア おなじ目線から見た働きかけ(続き)	○自分らしさが育まれるよう、必要な働きかけをしていますか(続き)	近場や遠方に関わらず子どもが楽しめる場所へよく出かけます。	公園など近場で子どもが楽しめる場所や、ときどき遠方(動物園、遊園地など)へ出かけます。	親が決めた子どもも遊べる場所へ出かけます。	近場で子どもだけで遊んでいます。 外出は買い物につれていくぐらいです。	子どものために外出することはありません。 子どもは家の近くの通りで遊んでいるかも知れません。 親は親で、友人と遊びに出かけます。
	2～4歳(続き)	季節ごとのお祝いも、子どものお祝いも欠かさず、盛大にしています。	季節ごとのお祝いも、子どものお祝いも欠かさずに行っています。	季節ごとのお祝いはしていますが、子どものお祝いはしないことがあります。	季節のお祝いだけしています。	していません。

項目	細事項	A	B	C	D	E
ア おなじ目線から見た働きかけ(続き)	○自分らしさが育まれるよう、必要な働きかけをしていますか(続き)					
	5歳以上(小・中学生)					
	教育	<p>とても関心があります。家庭でもしつかりサポートしています。</p>	<p>とても関心があります。都合がつけば、家庭でサポートしています。</p>	<p>学校に任せられています。家庭でサポートするとはほとんどありません。</p>	<p>あまり関心がありません。学校へ行かせるのは、給食など他の理由からです。</p>	<p>関心がありません。教育のために負担が増えたと落胆しているかもしれません。</p>
余活	<p>積極的にサポートしています。学校以外で「自分で決める」「ルールを大切に」「他の人と仲良くする」「他の人と仲良くする」を大切にしました。野外・室内活動(外遊び、スポーツ、手芸、工作など)へ計画的に参加しています。</p>	<p>できるかぎりサポートしています。学校以外で「自分で決める」「ルールを大切に」「他の人と仲良くする」を大切にしました。野外・室内活動(外遊び、スポーツ、手芸、工作など)へ計画的に参加しています。</p>	<p>あまりサポートしていません。学校以外で「自分で決める」「ルールを大切に」「他の人と仲良くする」を大切にしました。野外・室内活動(外遊び、スポーツ、手芸、工作など)へ計画的に子どもが参加しています。</p>	<p>サポートできていません。学校以外で「自分で決める」「ルールを大切に」「他の人と仲良くする」を大切にしました。野外・室内活動(外遊び、スポーツ、手芸、工作など)に子どもが自分で努力して参加しています。</p>	<p>サポートできません。子どもも参加していません。</p>	
友だちとの交流	<p>相談にのっています。友だちから話を聞くこともできます。</p>	<p>相談にのっています。</p>	<p>親のことを知っている友だちのことなら、相談にのっています。</p>	<p>「いじめられている」と人から聞けば相談にのります。</p>	<p>関心がありません。</p>	

項目	細事項	A	B	C	D	E
ア おなじ目線から見た働きかけ(続き)	○自分らしさが育まれるよう、必要な働きかけをしていますか(続き)	子どもが興味や関心をよせていることを、さらに伸ばすための用具(本格的なスポーツ用具、画材、楽器、パソコンなど)を提供しています。	子どもが興味や関心をよせていることを、さらに伸ばすための用具(本格的なスポーツ用具、画材、楽器、パソコンなど)をできるだけ提供しています。	子どもが興味や関心をよせていることを、さらに伸ばすための用具(本格的なスポーツ用具、画材、楽器、パソコンなど)の提供が十分ではありません。	子どもが興味や関心をよせていることを、さらに伸ばすには適さない用具(本格的なスポーツ用具、画材、楽器、パソコンなど)を提供しています。	提供していません。
	5歳以上(続き) (小・中学生)					

項目	細事項	A	B	C	D	E
イ	みとめてほめる	○子どもの変化, 成長, 成果に気づき, それをみとめ, ことばにして伝えていきますか	みとめて伝えています。	みとめていますが, 他人から教えられただら伝えます。	みとめていますが, ほとんど伝えていません。	みとめることもできません。
ウ	みとめられないことをしたとき	○わかりやすく伝えていきますか	いつでも伝えています。	伝えようとしていますが, 気分によって大きな声で叱る, 無視するなどしてしまいます。	気分によって大きな声で叱る, ひどいことばを投げかける, 叩くなどしてしまいます。	脅す, バカにする, 叩くなどしてしまいます。
エ	子どものプライドが傷ついたとき	○しっかりと受け止め, 支えられていますか	しっかりと受け止め, 支えています。	一時的に動揺しますが, 受け止め, 支えています。	いらだつてしまいますが, 受け止め, 支えています。	拒否する, けなすなどしてしまいます。
<p>注: 親の養育方法について特記事項がある場合は, 記録用紙にその旨を記録してください。</p>						

V 「子どもが心配」チェックシート

「子どもが心配」チェックシート

児童名 _____

記入年月日 _____

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">1 基本的生活</div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> ア 食事 <input type="checkbox"/> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>① 栄養バランスや食材に気を配っていますか <input type="checkbox"/></p> <p>② 食事の量はどうですか <input type="checkbox"/></p> <p>③ 育ちに応じた食事をつくっていますか <input type="checkbox"/></p> <p>④ 食育を実践していますか <input type="checkbox"/></p> </div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> イ 住まい <input type="checkbox"/> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>① 安全に配慮していますか <input type="checkbox"/></p> <p>② 育ちや希望にそった部屋になっていますか また、掃除は行き届いていますか <input type="checkbox"/></p> <p>③ 快適に暮らすための設備がそろっていますか <input type="checkbox"/></p> </div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> ウ 衣服 <input type="checkbox"/> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>① 暑さ寒さに応じた服を着ていますか <input type="checkbox"/></p> <p>② 毎日、体にあったサイズの服を着ていますか <input type="checkbox"/></p> <p>③ 身なりを整えていますか <input type="checkbox"/></p> </div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> エ 清潔 <input type="checkbox"/> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>○ 清潔さを保つ習慣が身につくようにしていますか <input type="checkbox"/></p> </div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> オ 健康 <input type="checkbox"/> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>① 健康に不安があるときは、病院を受診していますか <input type="checkbox"/></p> <p>② 必要な治療を受けていますか <input type="checkbox"/></p> <p>③ 子どもの健康に関する情報に関心をよせていますか また、必要な予防接種や健診を受けていますか <input type="checkbox"/></p> <p>④ 専門家のアドバイスを活用していますか <input type="checkbox"/></p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">2 安全・安心</div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> ア 親と一緒にいるとき <input type="checkbox"/> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>① 危険に気づいていますか <input type="checkbox"/></p> <p>② ①の危険への対策をしていますか <input type="checkbox"/></p> <p>③ 外出したとき、安全に気をつけていますか <input type="checkbox"/></p> <p>④ 家の中は子どもにとって安全な場所になっていますか <input type="checkbox"/></p> </div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> イ 親が不在のとき <input type="checkbox"/> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>○ 安全への対策をしていますか <input type="checkbox"/></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; margin-top: 10px;">3 愛情</div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> ア 親 <input type="checkbox"/> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>① 子どもの気持ちを察していますか <input type="checkbox"/></p> <p>② 子どもの気持ちによりそっていますか <input type="checkbox"/></p> <p>③ 子どもとのやりとりはどうですか <input type="checkbox"/></p> </div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> イ 親と子どもの関係 <input type="checkbox"/> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>① 意見交流をしていますか <input type="checkbox"/></p> <p>② 関係の質はどうですか <input type="checkbox"/></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; margin-top: 10px;">4 子どもの尊厳</div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> ア おなじ目線から見た働きかけ <input type="checkbox"/> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>○ 自分らしさが育まれるよう必要な働きかけをしていますか <input type="checkbox"/></p> </div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> イ みとめてほめる <input type="checkbox"/> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>○ 子どもの変化、成長、成果に気づき、それをみとめ、ことばにして伝えていますか <input type="checkbox"/></p> </div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> ウ みとめられないことをしたとき <input type="checkbox"/> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>○ わかりやすく伝えていますか <input type="checkbox"/></p> </div> <div style="border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> エ 子どものプライドが傷ついたとき <input type="checkbox"/> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>○ しっかりと受け止め、支えていますか <input type="checkbox"/></p> </div>
---	--

“The Graded Care Profile (GCP) Scale ~ A qualitative scale for measure of care of children ~”を
もとに、岡山県基準等作成ワーキング・グループが作成(2008)

VI 「子どもが心配」チェックシート 児童票

「子どもが心配」チェックシート 児童票

児童名 _____ ケース番号 _____

生年月日 _____ 記入年月日 _____

親の氏名 _____ 記録者氏名 _____

カテゴリー	項 目	評 価					カテゴリー 評価	備 考
		A	B	C	D	E		
1 基本的 生活	ア 食 事	A	B	C	D	E		
	イ 住 ま い	A	B	C	D	E		
	ウ 衣 服	A	B	C	D	E		
	エ 清 潔	A	B	C	D	E		
	オ 健 康	A	B	C	D	E		
2 安 全 心	ア 親と一緒にのとき	A	B	C	D	E		
	イ 親が不在のとき	A	B	C	D	E		
3 愛 情	ア 親	A	B	C	D	E		
	イ 親と子どもの関係	A	B	C	D	E		
4 子 ども の 尊 厳	ア おなじ目線から見た 働きかけ	A	B	C	D	E		
	イ みとめてほめる	A	B	C	D	E		
	ウ みとめられないことを したとき	A	B	C	D	E		
	エ 子どものプライドが 傷ついたとき	A	B	C	D	E		

○当面の支援の目安を設定する項目

- ・「目安を設定する項目」には、カテゴリー／項目／細事項の順に記載すること。
(例：3／イ／①＝愛情／親と子どもの関係／意見交流をしていますか)
- ・不釣り合いに低い評価のある項目は、「使い方」を参照して確認すること。

	目安を設定する細事項	現在の評価	目安とする評価	期 間	備 考
1	／ ／				
2	／ ／				
3	／ ／				
4	／ ／				
5	／ ／				

“The Graded Care Profile (GCP) Scale ～ A qualitative scale for measure of care of children ～”をもとに、岡山県基準等作成ワーキング・グループが作成(2008)

岡山県子ども虐待防止専門本部 児童相談に係る基準等作成グループ
(市町村児童家庭相談実践ガイドライン検討作成委員会)

リーダー（委員長）			
倉敷児童相談所 (Kurashiki Children's Consultation Office)	所長	水島 真寿美	(Director) (Masumi Mizushima)
サブリーダー			
子育て支援課	主幹	嶋田 俊幸	
メンバー（委員）			
中央児童相談所判定課	課長	内田 敏子	
	主幹	福田 敏隆	
	主任	青井 美帆	
相談課	主幹	浅田 浩司	
倉敷児童相談所相談課	主幹	池内 正江	
	主任	三宅 尚美	
	技師	糸賀 陽子	
津山児童相談所業務課	主事	角田 博子	(平成19年度)
津山保健所保健課	主幹	井上 博子	(平成19年度)
子育て支援課	副参事	竹田 人土	(平成19年度)
スーパーバイザー			
中国学園大学子ども学部子ども学科	教授	福 知栄子	
翻訳協力			
国際課	国際交流員	デイヴィッド・ジョーンズ	(David Jones)
事務局			
福祉相談センター総務企画課	主任	薬師寺 真	

『子どもが心配』チェックシート（岡山版）パンフレット版作成ワーキンググループ

リーダー（委員長）			
福祉相談センター総務企画課	主任	薬師寺 真	
メンバー（委員）			
中央児童相談所	所長	内田 敏子	
子ども支援課	主事	櫻井 良子	
	技師	勝原 三貴	
倉敷児童相談所	主事	池上 幸子	
子ども相談課	所長	花房 恭子	
	主事	港 かおり	
子ども養護課	主事	正能 和美	
子ども発達支援課	主事	白井 美保	
津山児童相談所	主事	清水 妙子	
子ども支援課	所長	山浦 浩一郎	
	主事	染川 智	
	主事	安藤 恵	
福祉相談センター総務企画課	主任	三宅 尚美	
スーパーバイザー			
中国学園大学子ども学部子ども学科	教授	福 知栄子	
岡山県精神科医療センター			
医療連携部医療福祉課	参事	水島 真寿美	
事務局			
子ども未来課	総括参事	石橋 道子	
	主任	山添 陽子	

連絡先：

〒700-0807 岡山県岡山市北区南方2丁目13-1
岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館（きらめきプラザ）
岡山県福祉相談センター総務企画課
TEL (086) 235-4844 FAX (086) 235-4156
E-mail: hukushi@pref.okayama.lg.jp

『子どもが心配』チェックシート（岡山版）[平成22年度改訂]

(Okayama Prefecture's very own version of "The Graded Care Profile(GCP) Scale")

2009年3月16日(16, March, 2009) 初版 第1刷発行

2011年3月31日(31, March, 2011) 改訂 第1刷発行

2012年4月1日(1, April, 2012) 改訂新版第1刷発行

作成：薬師寺 真 内田敏子 櫻井良子 勝原三貴 池上幸子 花房恭子
港 かおり 正能和美 白井美保 清水妙子 山浦浩一郎 染川 智
安藤 恵 三宅尚美 石橋道子 山添陽子

発行：岡山県 (Okayama Prefectural Government)



「ももっち」と「うらっち」